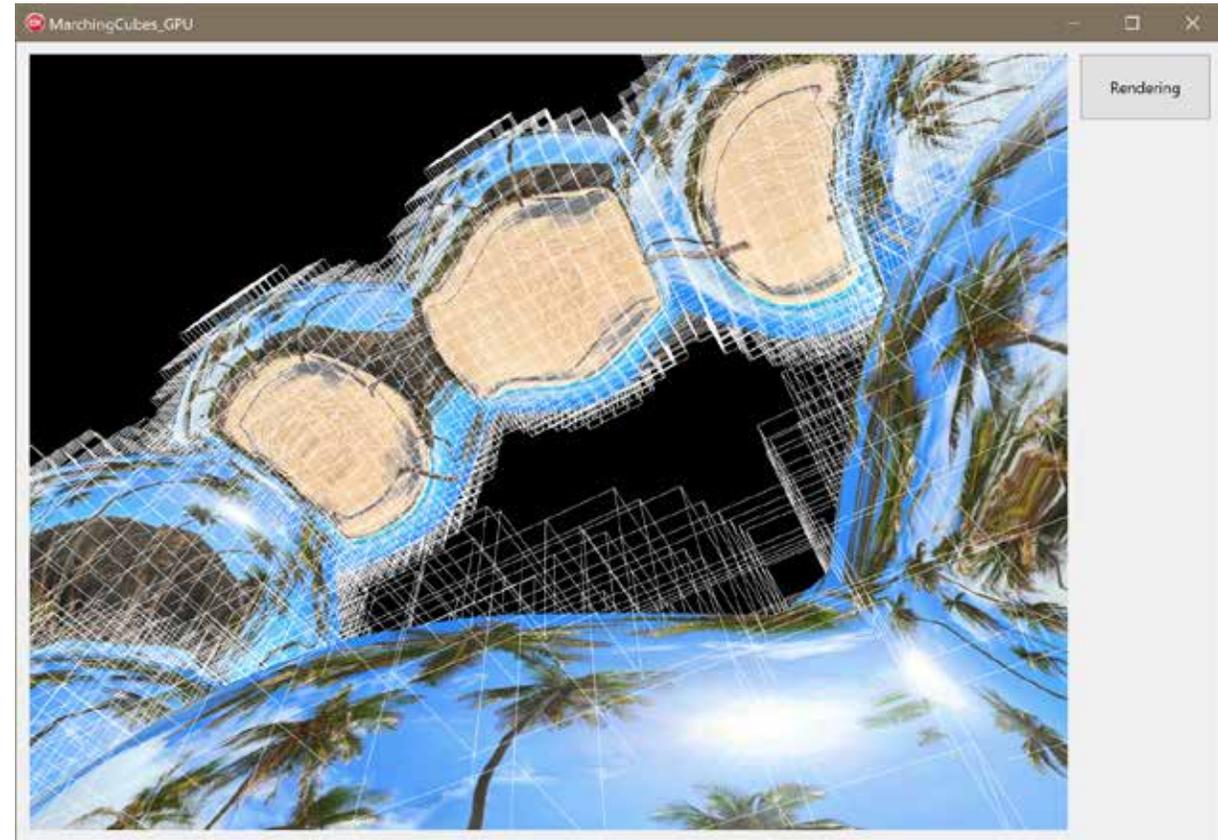


# ボクセルで3Dモデリング

～ブロックを積むだけの簡単なお仕事～

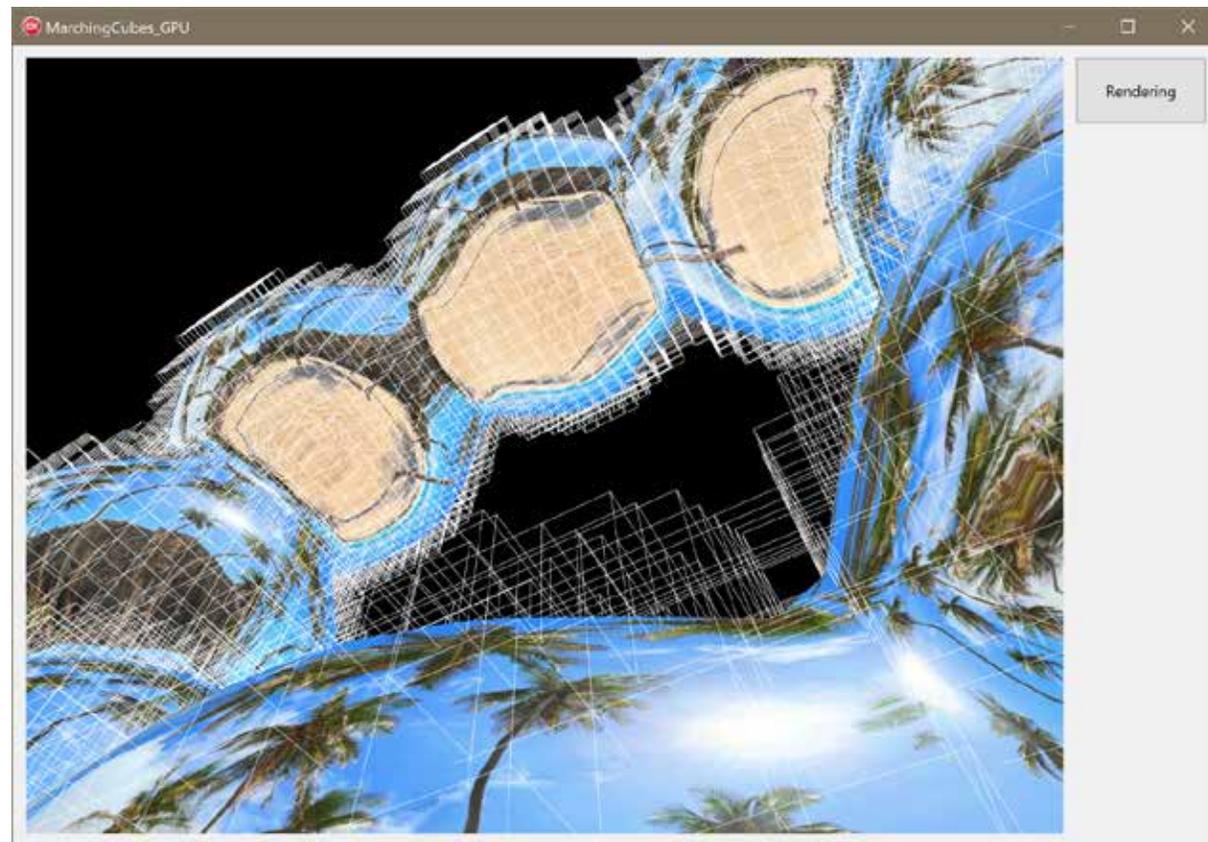
第35回 エンバカデロ・デベロッパーキャンプ

慶應義塾大学 大学院工学研究科 藤代研究室  
リサーチフェロー 中山 雅紀



 **embarcadero**<sup>®</sup>  
DEVELOPER CAMP

# §はじめに



**e**mbarcadero®  
DEVELOPER CAMP

# アジェンダ .はじめに

## § 3Dモデルの作り方

- FireMonkey の場合
- OpenGL の場合

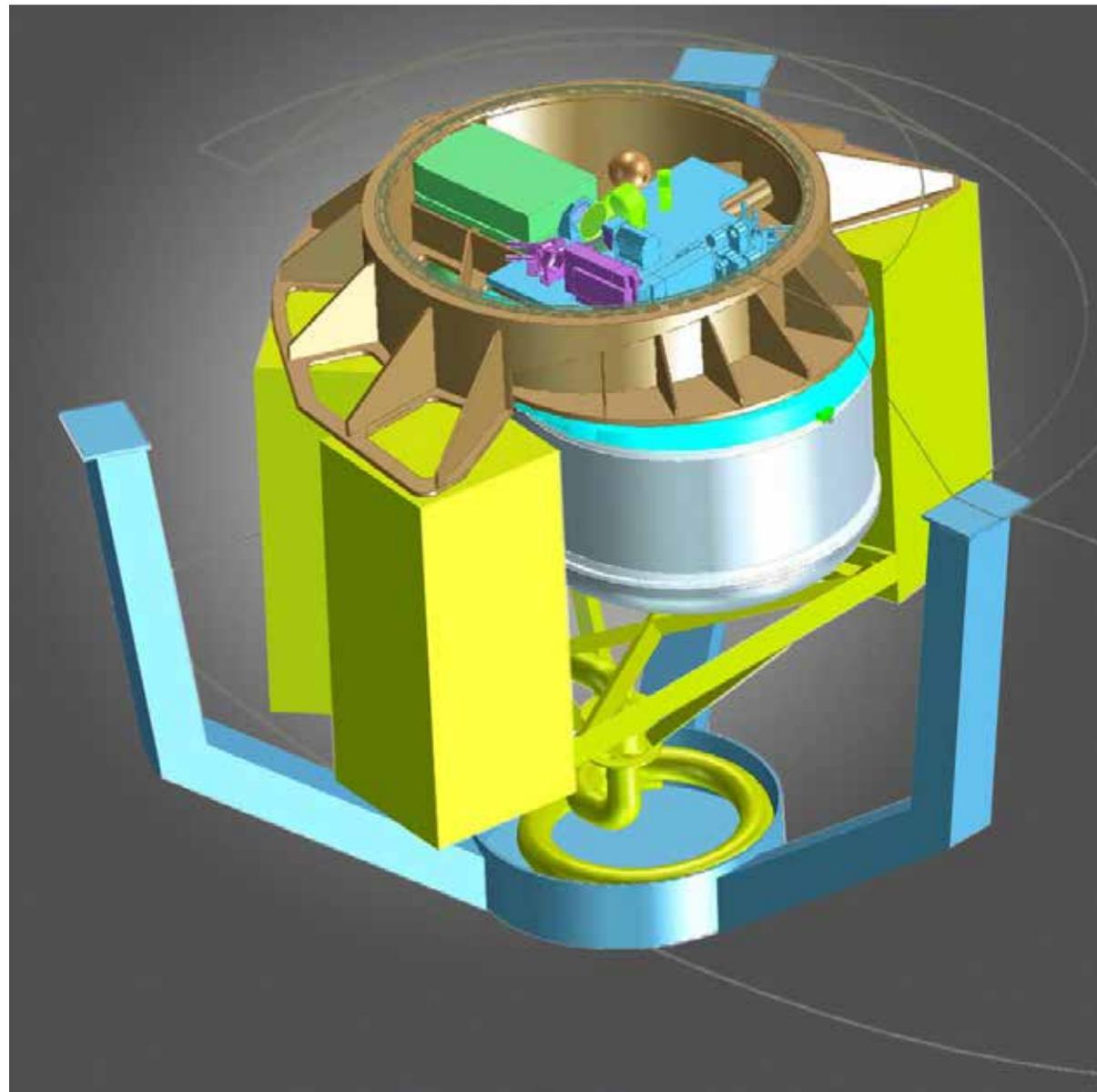
## § モデリングの方法論

- 陽関数でモデリング
- 陰関数でモデリング
- ブロックでモデリング
- ボリュームでモデリング

## § 断層写真の立体化

## § ポリゴンをボクセルへ変換

## § テトラヘドライゼーション



© [en.wikipedia.org/wiki/3D\\_modeling](http://en.wikipedia.org/wiki/3D_modeling)

## § 自己紹介

§ 怪しい人じゃないよ。



<https://deepart.io>



**e**mbarcadero  
DEVELOPER CAMP

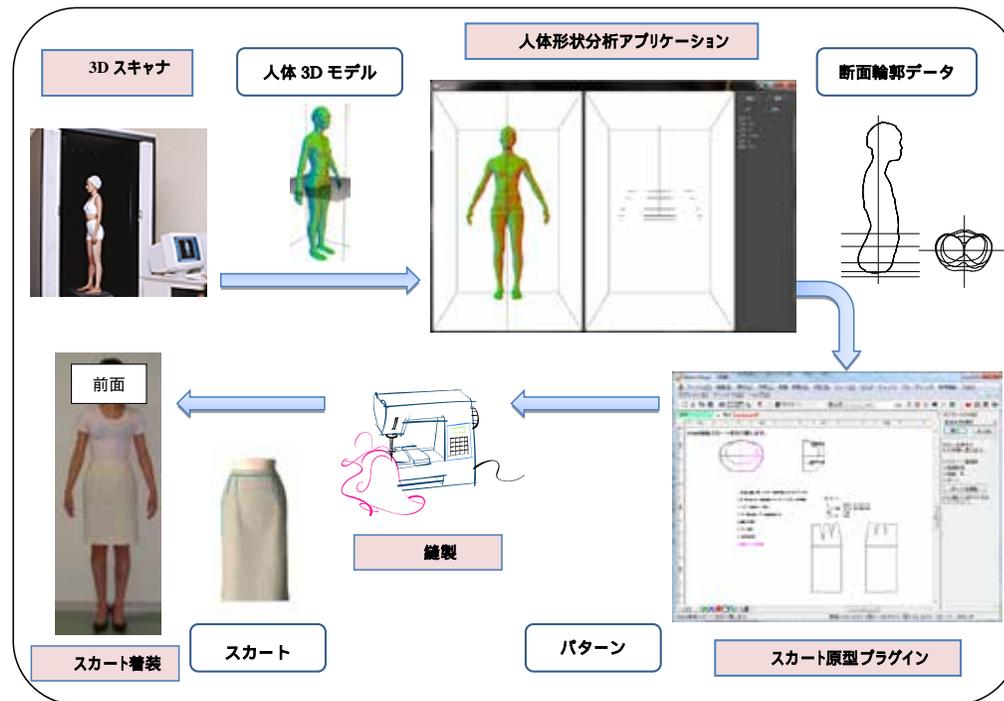
# 専門 . 自己紹介

## § 大学

- 慶應義塾大学 藤代研究室
  - リサーチフェロー
- 和洋女子大学 山本研究室
  - 共同研究員

## § 研究

- 球面上の信号処理
- フォトリアルCG
- 立体視映像
- 3Dアパレル設計
- 3Dプリンタ
- **ボリュームモデリング**



# 趣味 . 自己紹介

## § アルゴリズムで生成されるメディアアート制作

- 中学生時代からフラクタルに心酔
- 絶滅危惧種のステレオグラム作家



第13回 学生CGコンテスト

学生CGコンテストとは 応募要項 応募状況 審査委員紹介 過去の受賞作品 過去の開催レポート 資料請求

静止画部門 受賞作品発表

**最優秀賞**

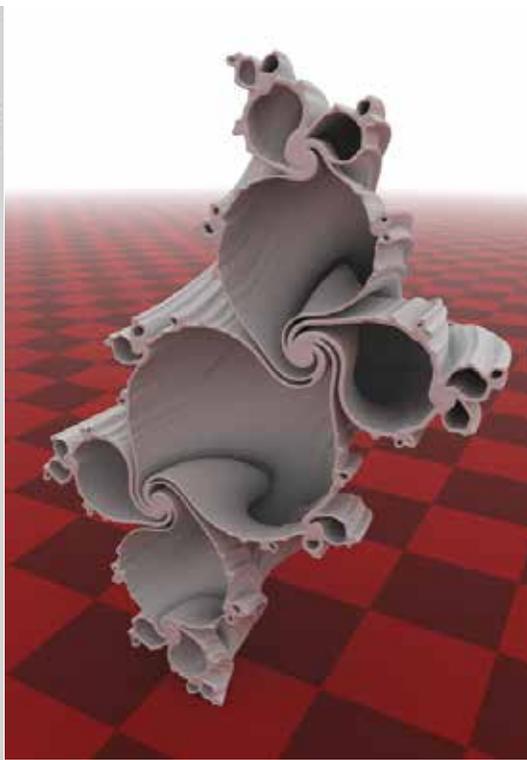
**captive julia**

中山 智紀

鳥取県立大学大学院 理工学研究科 応用物理学専攻修士課程 4年

受賞のコメント  
この度は、恐縮にも最優秀賞に推薦して頂き光栄の極みと感じております。芸術系の学部に属していない私にとって、本コンテストへの応募は違和感を否めないものでしたが、CG研究に専事する者として、科学と芸術の垣根を越えたいという希望の達成は、掛け替えのない喜びとなりました。本作品は、フラクタル幾何学という理詰まり、自然の丁々響きとする様相です。私のセンスなど遠く及ばない、自然の深遠なる摂理をご鑑賞下さい。

審査員評  
フラクタル集合の二次元描画はすでに幾何学的なものである。しかし3次元にした途端、これほど印象が変わることがとても興味深い。2次元では色鮮やかな高線が一掃的であるのに対し、色彩を極力薄くし、その形勢と周囲の凹凸や穴にはっきりとした高線も物々しい。フラクタルな表面は、まるで数学的なはずのアルゴリズムから生み出されたとは思えないアブゾグ感と、心地よい脆弱さを感じている。



近視・乱視・老眼に効く！

500円(税込)

どんどん目が良くなる

新装版 マジカル・アイ

「マジカル・アイ」シリーズが  
お手頃価格で楽しめる！

新作11点を追加!!

シリーズ累計、530万部突破!

# 本業 . 自己紹介

- § 玉泉山 安国院
- 千葉県市川市
  - 住職



安国院  
@ankokuin

ホーム

ページ情報

写真



いいね! 済み フォロー中 シェア

メッセージを送信



[www.facebook.com/ankokuin](http://www.facebook.com/ankokuin)

# 連絡先 . 自己紹介

§ 是非お友達になって下さい！



facebook.com/luxidea



twitter.com/luxidea



facebook.com

/fujishiro.lab

twitter.com/fujishirolab



facebook.com

/luxophia

twitter.com/luxophia



# コミュニティ . 自己紹介

## § C G 技術を学問的に探究するコミュニティ ( Delphiに限らない )



[facebook.com/academia.graphics](https://facebook.com/academia.graphics)



[twitter.com/AxGRAPH](https://twitter.com/AxGRAPH)

## § C G 技術の Delphi による実装を探究するコミュニティ

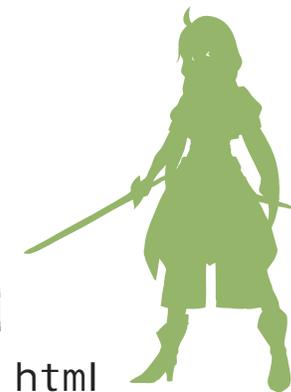


[facebook.com/DelphiCG](https://facebook.com/DelphiCG)



[twitter.com/delphi\\_cg](https://twitter.com/delphi_cg)

## § 3 Dコンポーネントの作り方



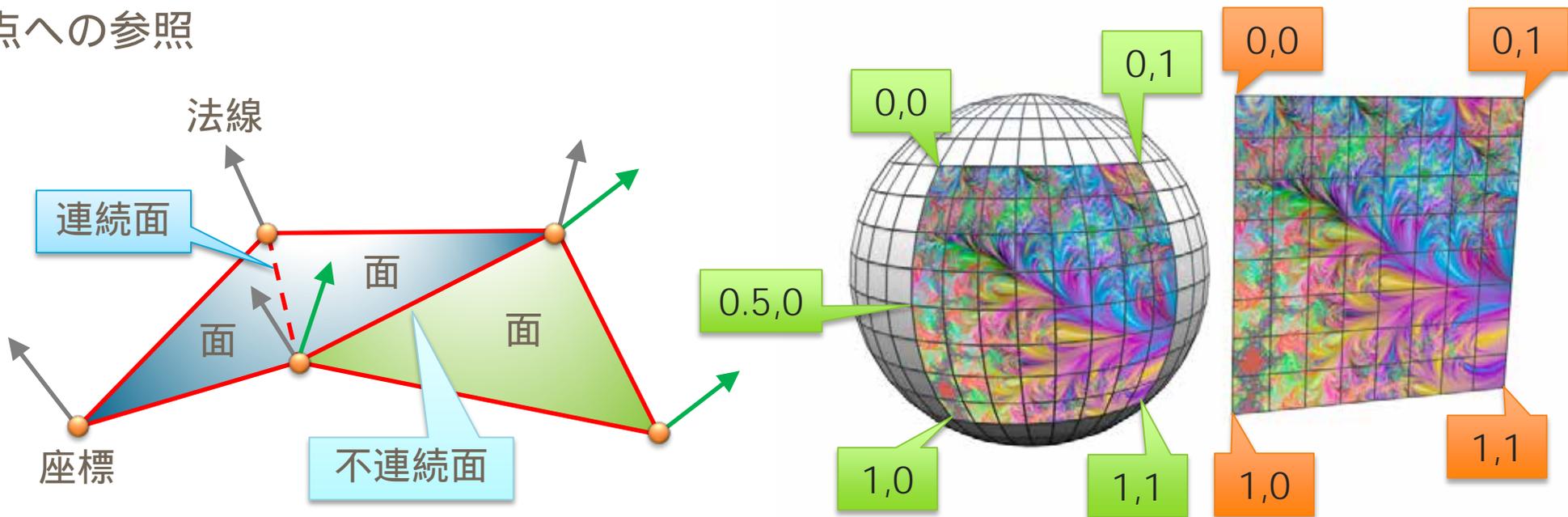
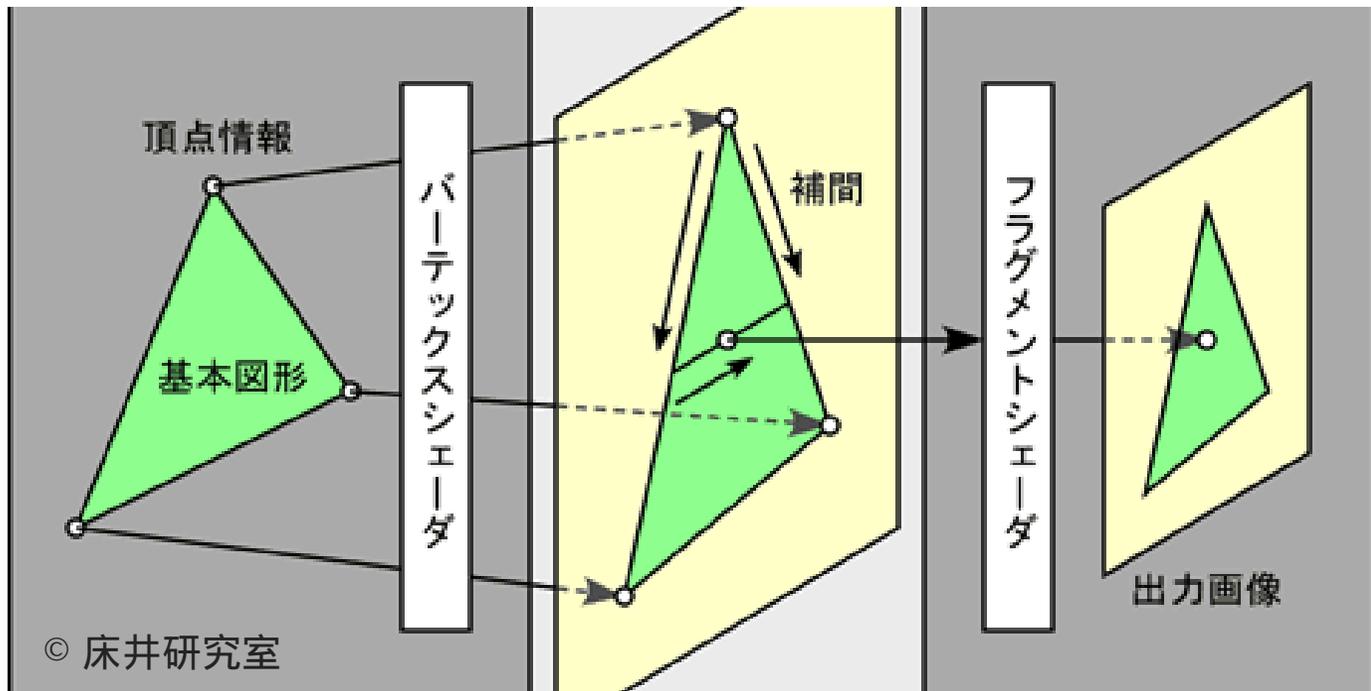
© [ht-deko.com/AppMethod/summary/fmx\\_3d.html](http://ht-deko.com/AppMethod/summary/fmx_3d.html)

**e**mbarcadero®  
DEVELOPER CAMP

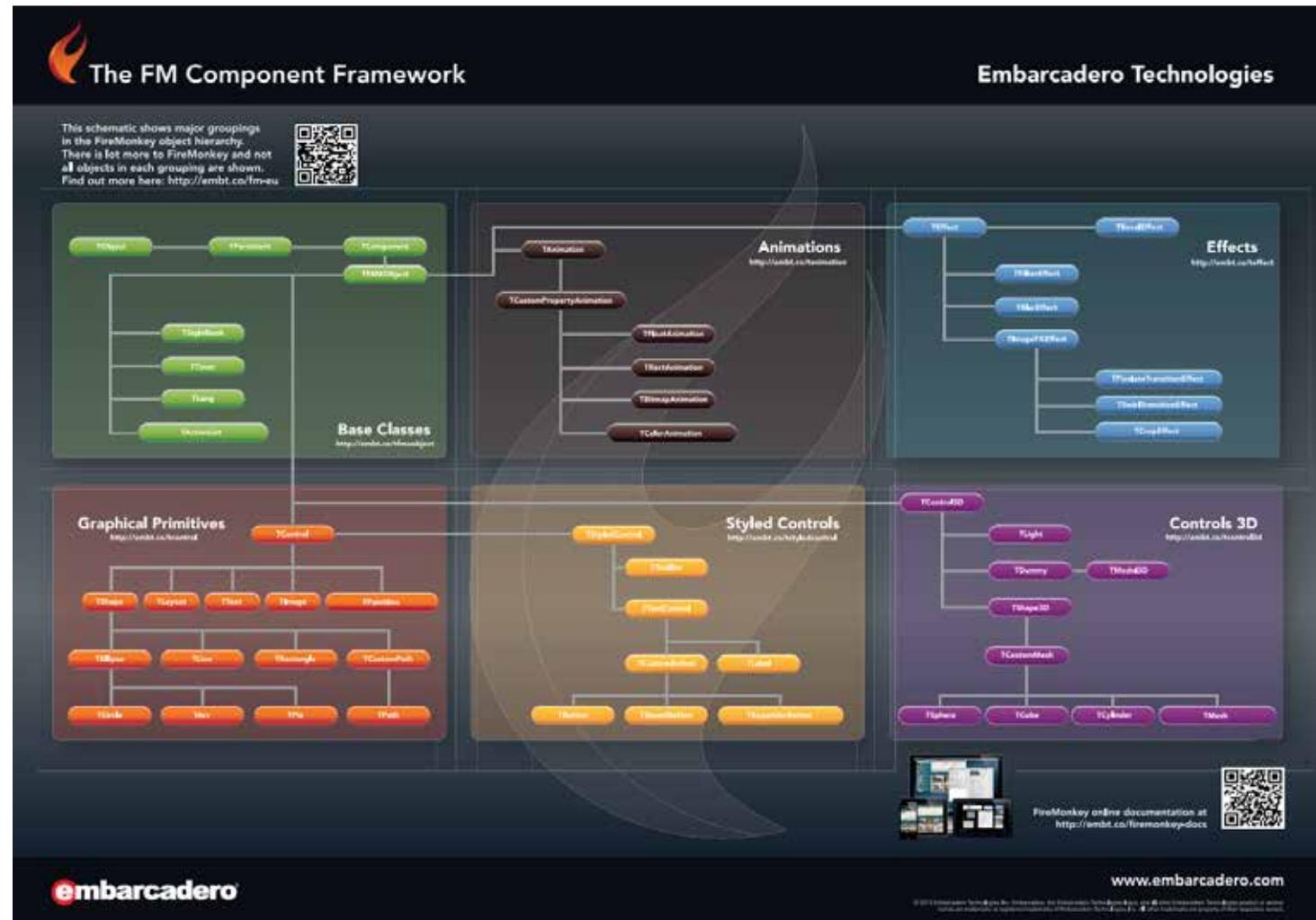
# GPUに描かせる方法

## § 点・線・三角しか描けない

- 頂点
  - 位置座標 (3D)
  - 法線: 面の垂直ベクトル (3D)
  - テクスチャ座標 (2D)
- 面
  - 3つの頂点への参照



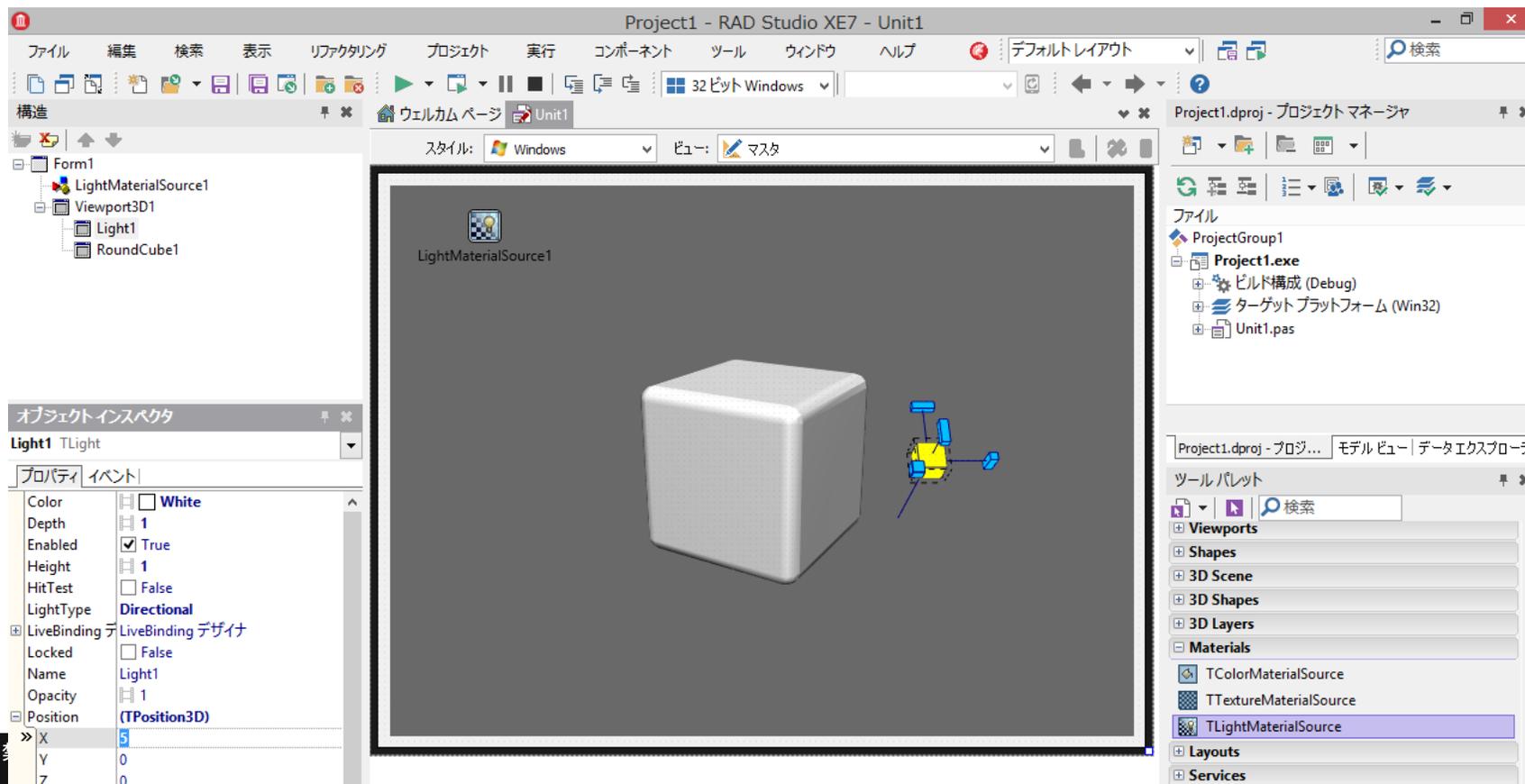
# § FireMonkey の場合



# コンポーネント .FireMonkey

## § GPUを活用したリアルタイムな3DUIを提供可能

- Windows : Direct3D
- macOS , iOS, Android : OpenGL



# 3Dクラス .FireMonkey

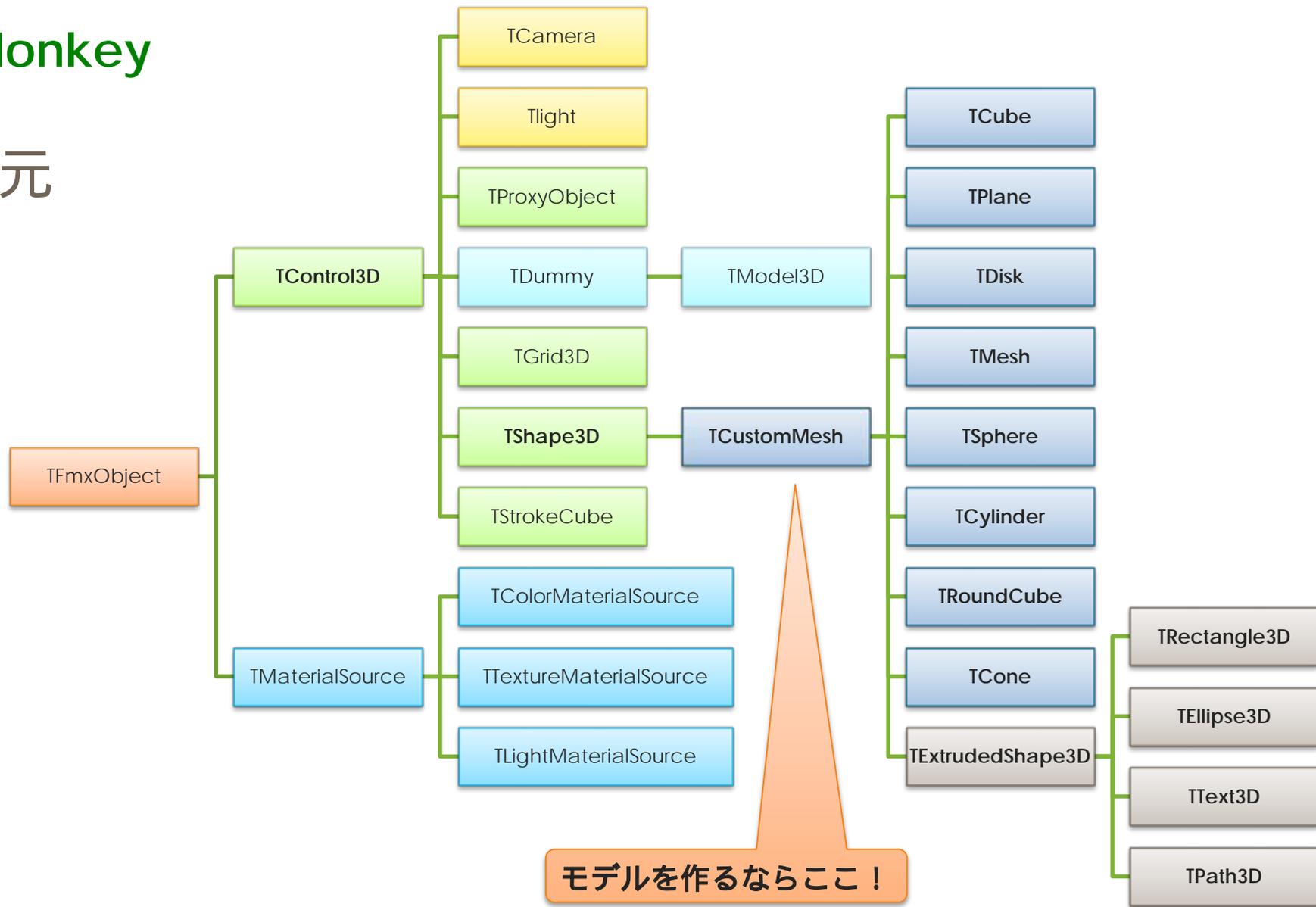
§ TControl3D が大元



§ TShape3D



§ TCustomMesh



## 転送バッファ `.FireMonkey`

- § `TShape3D = class( TControl 3D )`
  - property `MaterialSource` : `TMaterialSource`
    - マテリアルコンポーネントへの参照
- § `TCustomMesh = class( TShape3D )`
  - property `Data` : `TMeshData`
    - ポリゴンデータを保持する
- § `TMeshData = class( TPersistent )`
  - property `VertexBuffer` : `TVertexBuffer`
    - 頂点配列
  - property `IndexBuffer` : `TIndexBuffer`
    - 面配列

# 頂点バッファ `.FireMonkey`

§ `TVertexBuffer = class( TPersistent )`

- `property Length : Integer`
  - 頂点数
- `property Vertices[ AIndex: Integer ] : TPoint3D`
  - 頂点の位置座標
- `property Normals[ AIndex: Integer ] : TPoint3D`
  - 頂点の法線ベクトル
- `property TexCoord0[ AIndex: Integer ] : TPointF`
  - 頂点のテクスチャ座標

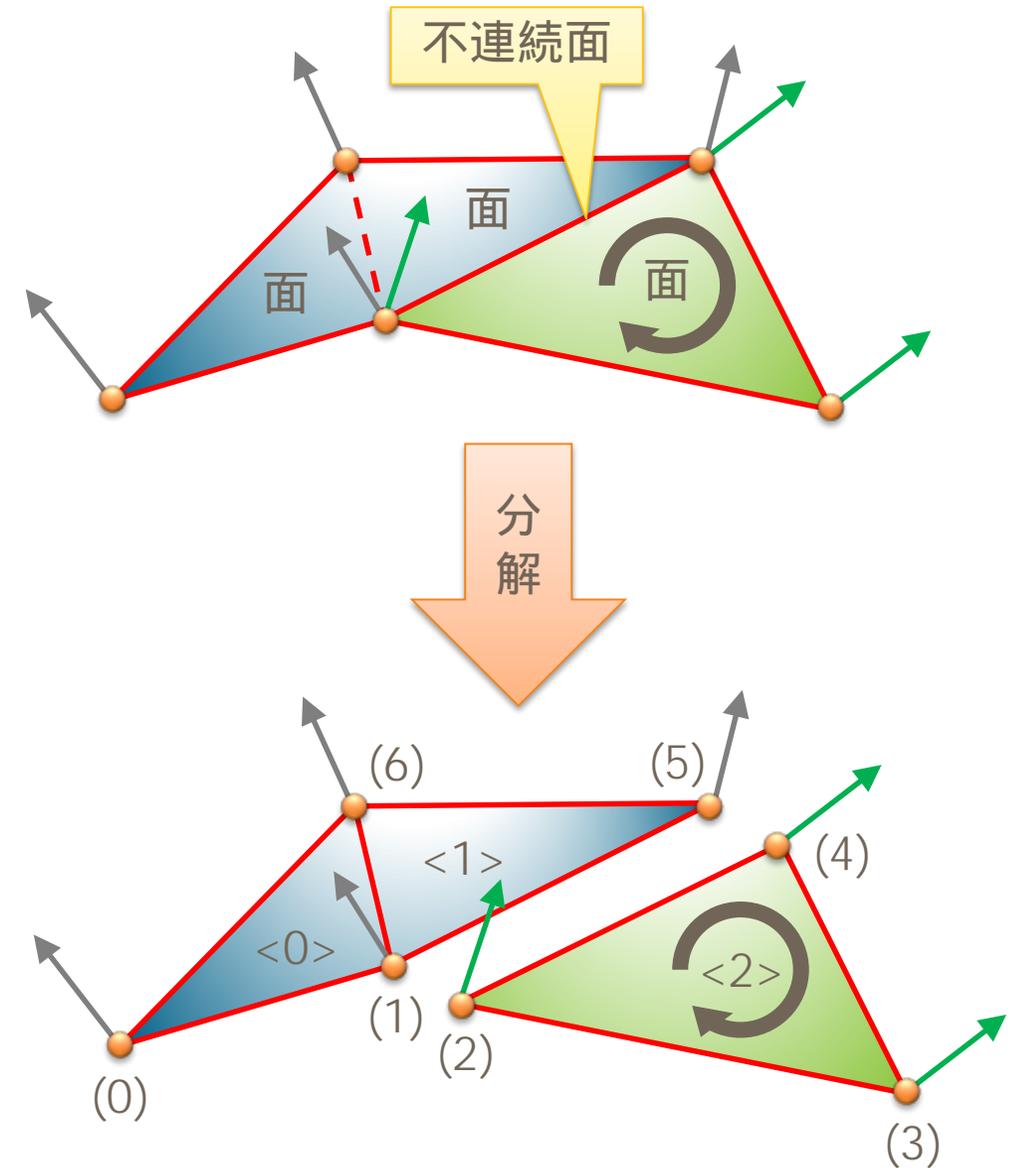
## 面バッファ .FireMonkey

§ TIndexBuffer = class( TPersistent )

- property Length : Integer
  - 面数×3 : ポリゴン
  - 線数×2 : ワイヤースタイル
  - 点数×1 : ポイントクラウド
- property Indices[ AIndex: Integer ] : Integer
  - N番目のポリゴンの属する頂点のインデックス番号
  - Indices[ 3×N+0 ] = 頂点
  - Indices[ 3×N+1 ] = 頂点
  - Indices[ 3×N+2 ] = 頂点

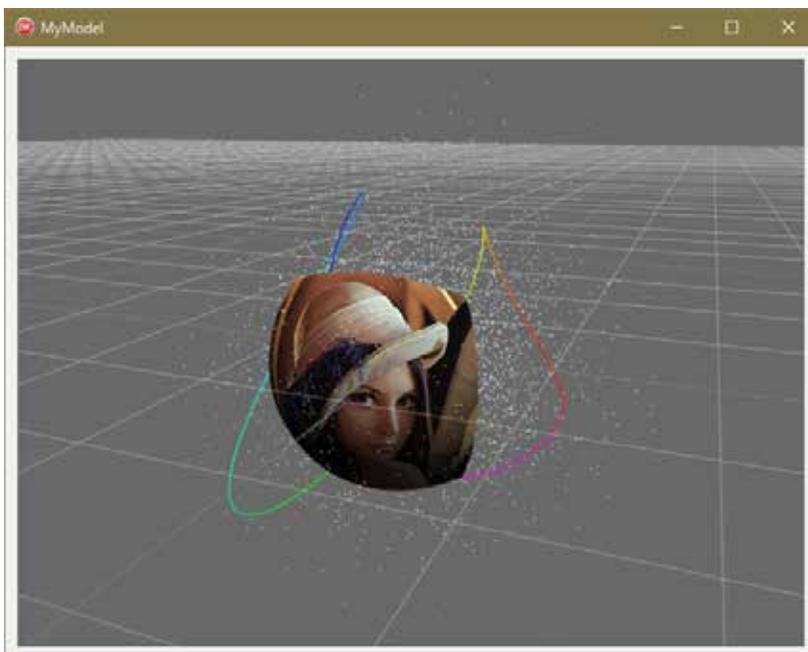
# 実装 .FireMonkey

```
with Data do
begin
  with VertexBuffer do
  begin
    Length := 7{頂点数};
    Vertices [ 0 ] := TPoint3D.Create( *, *, * ){位置座標};
    Normals [ 0 ] := TPoint3D.Create( *, *, * ){法線ベクトル};
    TexCoord0[ 0 ] := TPointF.Create( *, * ){テクスチャ座標};
    ~
    Vertices [ 6 ] := TPoint3D.Create( *, *, * );
    Normals [ 6 ] := TPoint3D.Create( *, *, * );
    TexCoord0[ 6 ] := TPointF.Create( *, * );
  end;
  with IndexBuffer do
  begin
    Length := 3{頂点数/ポリゴン} * 3{ポリゴン数};
    Indices[ 3*0+0 ] := 6;
    Indices[ 3*0+1 ] := 1;
    Indices[ 3*0+2 ] := 0;
    Indices[ 3*1+0 ] := 6;
    Indices[ 3*1+1 ] := 5;
    Indices[ 3*1+2 ] := 1;
    Indices[ 3*2+0 ] := 4;
    Indices[ 3*2+1 ] := 3;
    Indices[ 3*2+2 ] := 2;
  end;
end;
```

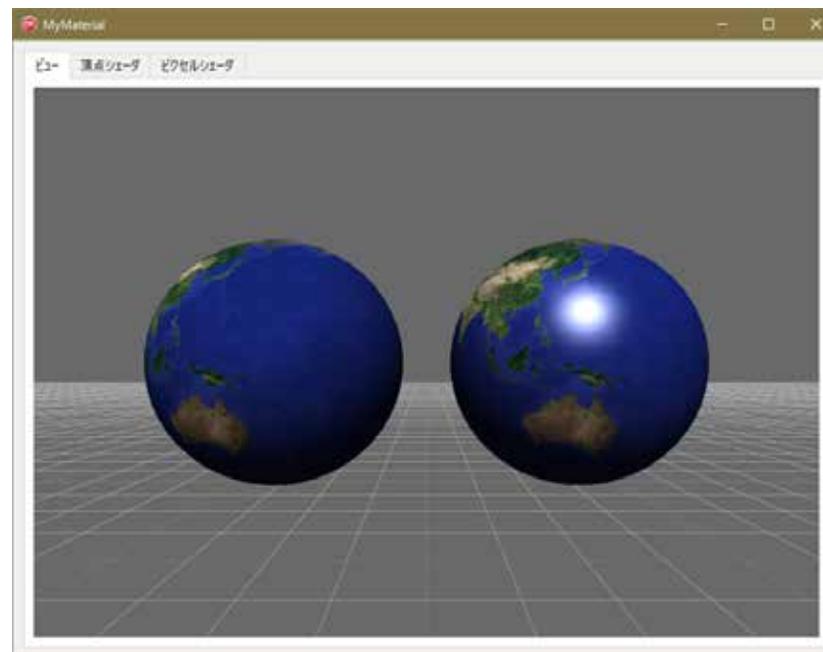


# デモ .FireMonkey

§ Direct3D ( HLSL ) を使用



[github.com/LUXOPHI A/MyModel](https://github.com/LUXOPHI A/MyModel)

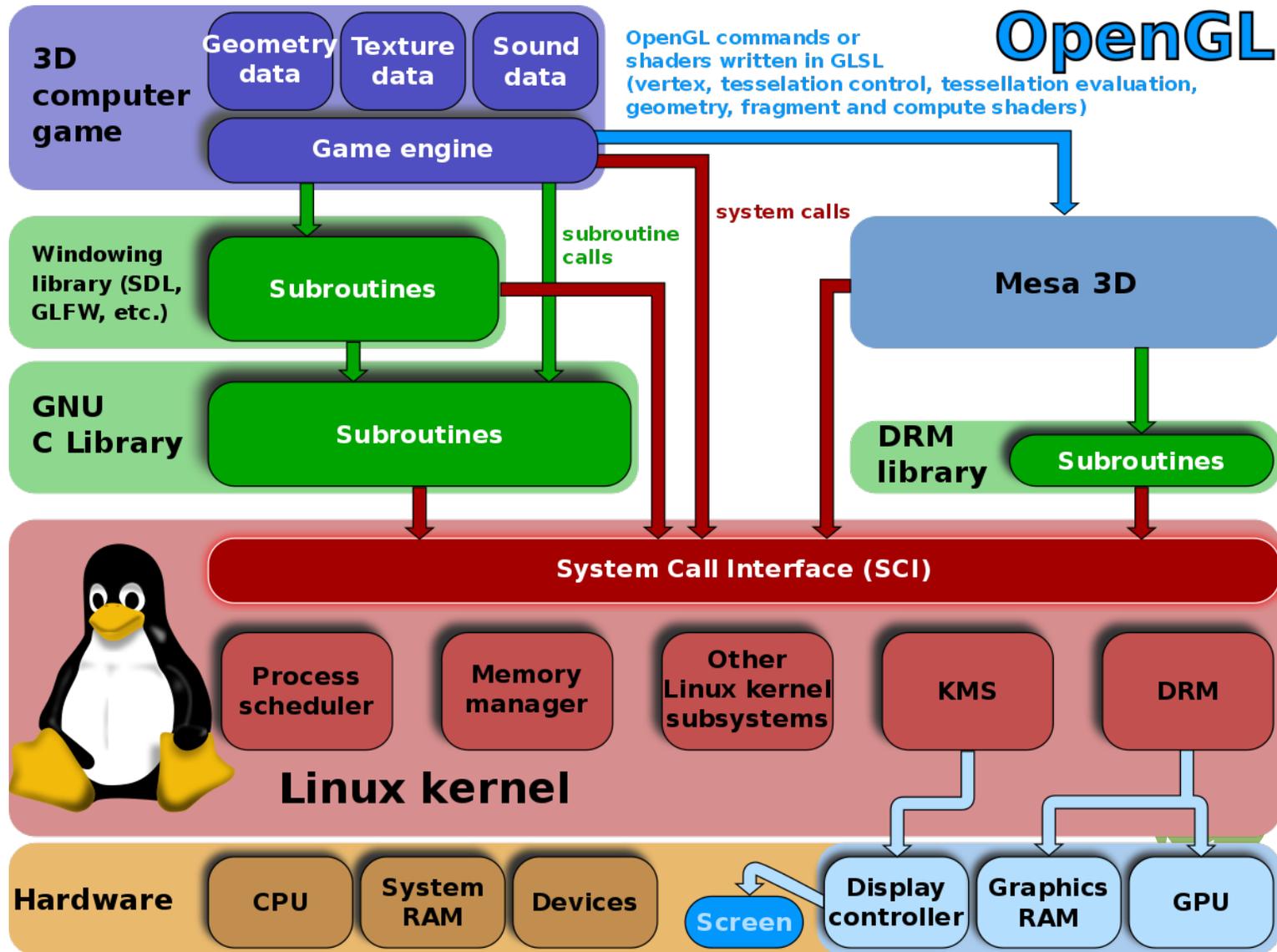


[github.com/LUXOPHI A/MyMaterial](https://github.com/LUXOPHI A/MyMaterial)



[github.com/LUXOPHI A/MyAsset](https://github.com/LUXOPHI A/MyAsset)

# §OpenGL の場合



# OpenGL とは? .OpenGL

## § リアルタイム 2D/3DCG用API

- GPU : Graphics Processing Unit を活用
  - コンシューマ向けグラフィックボード
  - クリエイター向けグラフィックボード

## § Khronos Group が策定

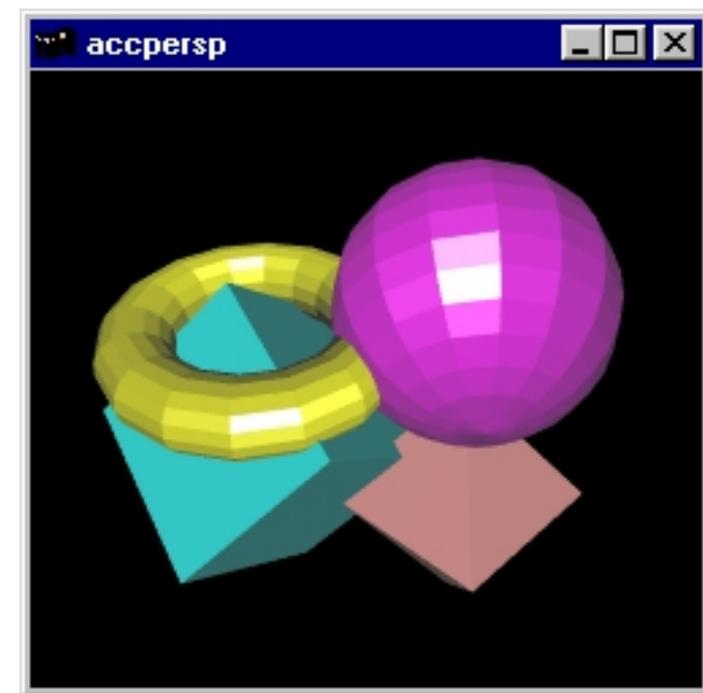
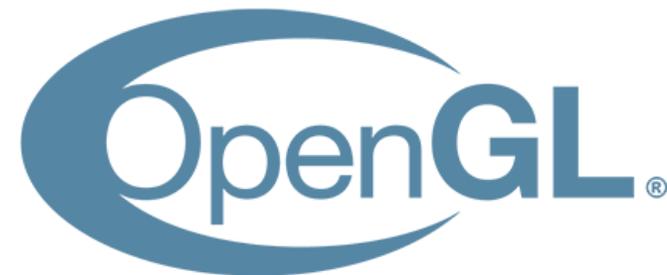
- [www.khronos.org](http://www.khronos.org)

## § クロスプラットフォーム

- Windows, macOS, Android, iOS, Linux...

## § C-API ベース

- ラッパー作りが容易
- Windows
  - `gl.h` → `Winapi.OpenGL.pas`
  - `gl_ext.h` → `Winapi.OpenGLext.pas`



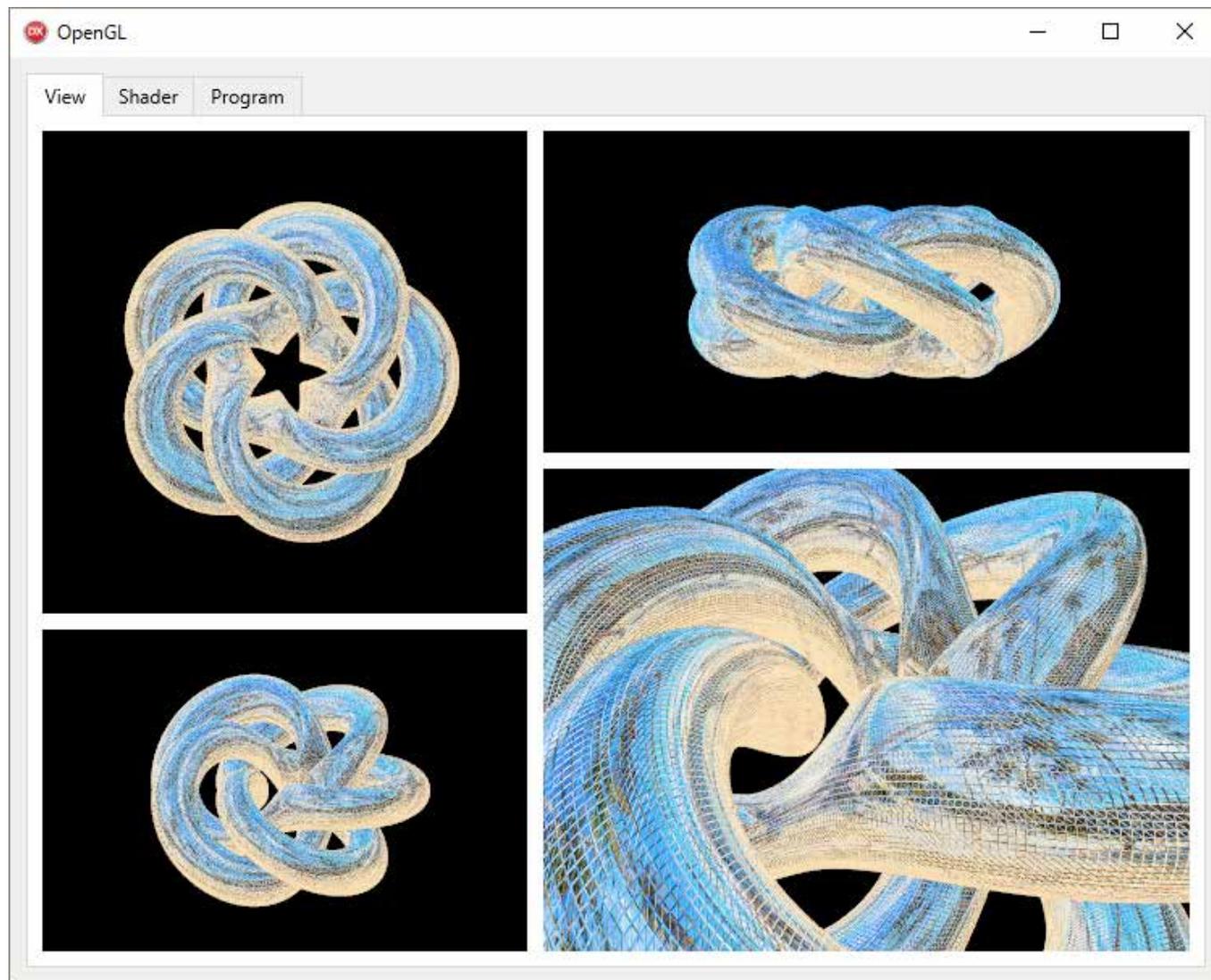
# 中山ライブラリ .OpenGL

§ FMX と VCL の両方に対応

§ OpenGL のスペックを完全に引き出せる

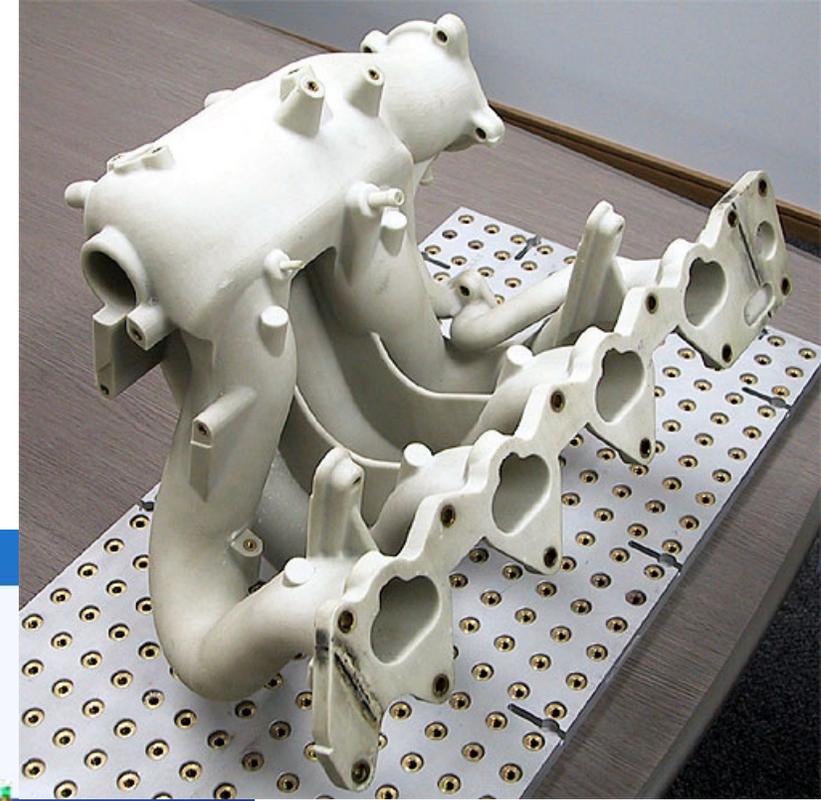
[github.com/LUXOPHIA/OpenGL](https://github.com/LUXOPHIA/OpenGL)

[github.com/LUXOPHIA/OpenGL\\_VCL](https://github.com/LUXOPHIA/OpenGL_VCL)



# 実績 .中山ライブラリ.OpenGL

§ 3Dプリンタ制御ソフトの（表示部分の）  
開発に携わらせて頂きました！



ハイエンド3Dプリンターの開発・販売・保守・モデリングサービス

リンク

サイトマップ



HOME

製品情報

モデリングサービス

研究開発

会社案内

## 製品造形の3Dプリンター

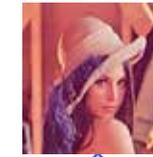
新世代“粉末床溶融結合装置” *RaFaEl II* シリーズ

- ☑ 高速造形
- ☑ ランニングコスト削減
- ☑ 簡単な材料交換
- ☑ 高い信頼性
- ☑ 自社製の制御ソフトウェア
- ☑ 優れた造形精度



# 転送バッファ .OpenGL

## § シェーダへ各種バッファをバインド



Use

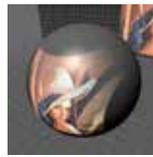
. Imagers

. Verters

TGLVerter

TGLProgra

TGLShaderV



. Framers

TGLShaderF

TGLVarray

. Uni fors

TGLUni for

Be the first to clip this slide

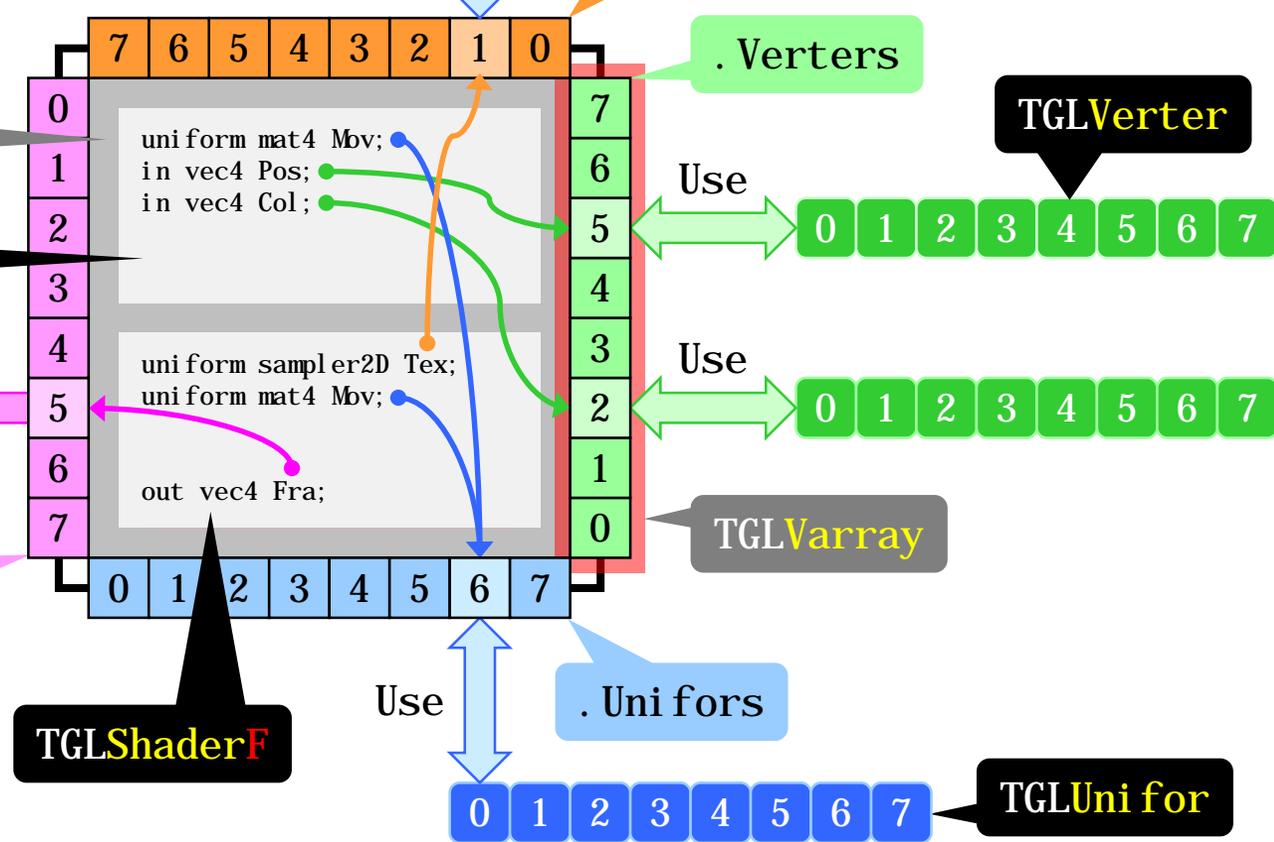
Delphiで超高速OpenGL 2D/3D描画  
 ~FMX/VCLコンポーネントで驚きの性能実現~  
 第34回 エンバカデロ・デベロッパークャンプ

慶應義塾大学藤代研究室 特別研究員  
 + 玉泉山安国院 住職

中山 雅紀  
 contact@luxidea.net

embarcadero DEVELOPER CAMP

1 of 65



# §モデリングの方法論



# 陽関数・モデリング

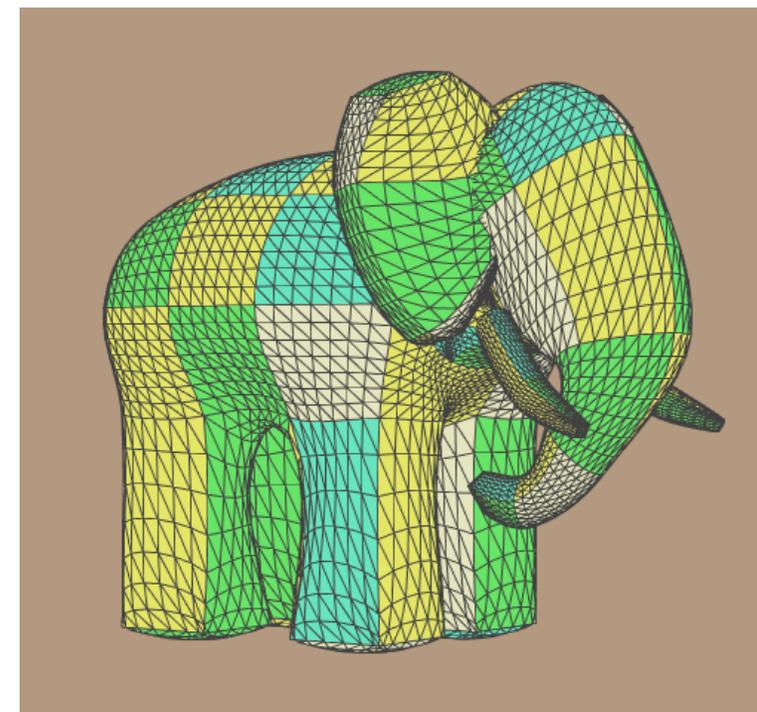
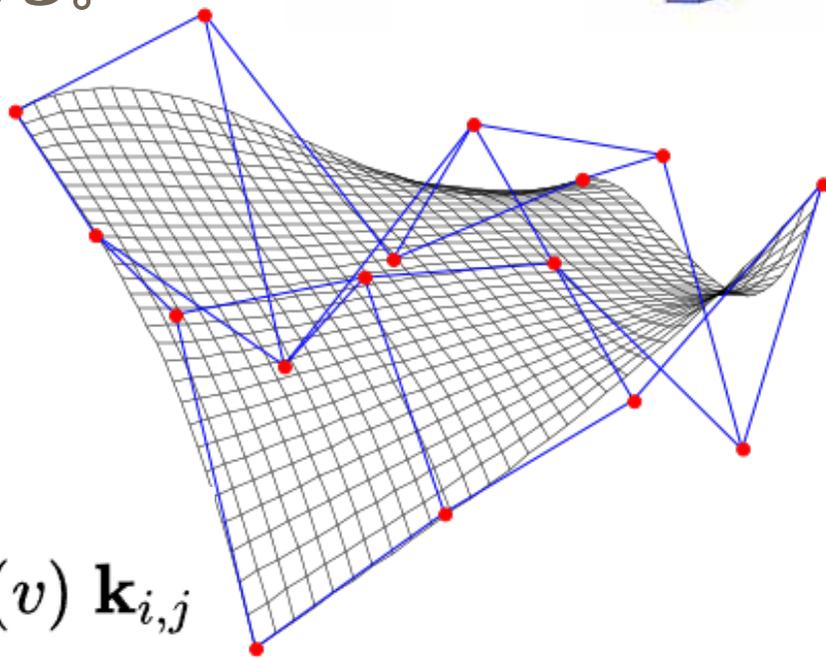
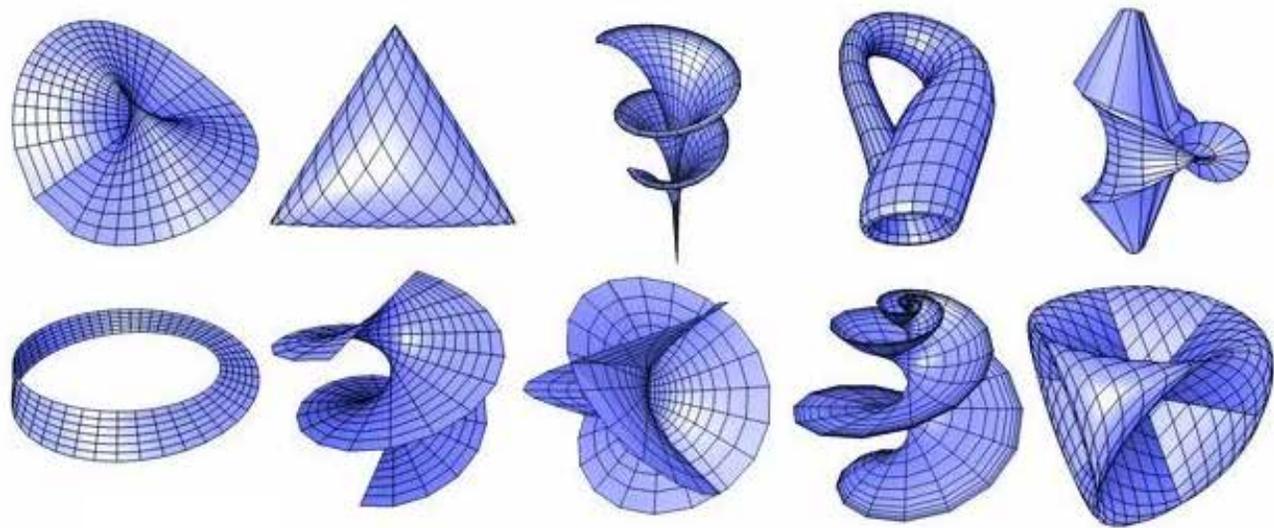
§ 陽関数表現： $x, y, z = f(u, v)$

- パラメトリック曲面
- パラメータに従って表面座標が一意に決まる。
- 計算コスト：低

§ 設計自由度の向上

- 陽関数のツギハギ
  - ベジエ曲面
  - Bスプライン曲面
  - NURBS曲面

$$\mathbf{p}(u, v) = \sum_{i=0}^n \sum_{j=0}^m B_i^n(u) B_j^m(v) \mathbf{k}_{i,j}$$



© en.wikipedia.org/wiki/Bézier\_surface

# UtahTeapot .陽関数.モデリング

## § ベジエ曲面を実装

github.com/LUXOPHIA  
/UtahTeapot

### 5.2 コンピュータグラフィックス

藤代一成(慶大)

コンピュータグラフィックス (CG) 技術<sup>[1]-[3]</sup>の源流は、1963年に米国MITのサザランド (Sutherland) によって発表された SketchPad とされている。人間が紙の上にイラストや絵を自由に描くのと同様に、コンピュータにもディスプレイモニタ上に図形を描かせることにより、利用者<sup>[4]</sup>が動的な情報<sup>[5]</sup>を表現し、同時に自律で知的な挑戦からCGは誕生した。その後の半世紀を超える研究開発の結果、現代のCGは、各種工業製品の形状設計や映像作品/ビデオゲームの制作だけでなく、バーチャルリアリティやデータの可視化等の要素技術としても幅広く利用されている。

本節ではその進展をシステムの観点からまとめた後、モデリング、レンダリング、アニメーションという主要構成技術ごとに概説する。図 2.88 は、CG 分野でよく知られた手本形状 Utah ティーポットを4種類の異なるCG関連技法によって表現したものである。

#### 5.2.1 システム

SketchPad 誕生当時の CRT ディスプレイは、ランダムスキャン方式であり、一筆書きの線画しか描けなかった (ベクタグラフィックス、図 2.88 (a))。その後、ラスタスキャン方式が登場して図形内部が塗り潰せるようになり、各種の技法を用いて写実性を増したラスタグラフィックス (図 2.88 (b)) に移行し、現在に至る。

デジタル画像は、フレームバッファに一時的に記憶され、瞬間的にその全内容が走査・表示される。リフレッシュレート (1/30~1/120 秒) 以内で後続の画像が

準備できれば、仮現運動の原理に従って時間変化するコンテンツは連続して見え、アニメーションが成立する。

表示画像の品質は、解像度 (画素密度) と色数 (階調数) で決まり、機器や用途により様々な規格が知られている。画素数では 4K (3,840×2,160 個) やその4倍の 8K といった規格まで登場してきた一方、色数に関しても 24 ビット (約 1,678 万色) のフルカラーを超えて、ダイナミックレンジの広い画像が表示できる HDR 画像<sup>[6]</sup>や、人間の視覚能力を超えて、人間の目には見えない可視域外の情報が含まれる

両眼視差の原理を利用して立体視を可能にするヘッドマウントディスプレイは、既に 1990 年代に登場していた (アイデア自体は 1960 年代のサザランドの発明に遡る) が、2015 年を境に安価で高性能な市販品が次々と登場し始め、没入的コンテンツ普及への大きな刺激と

電子情報通信学会100年史

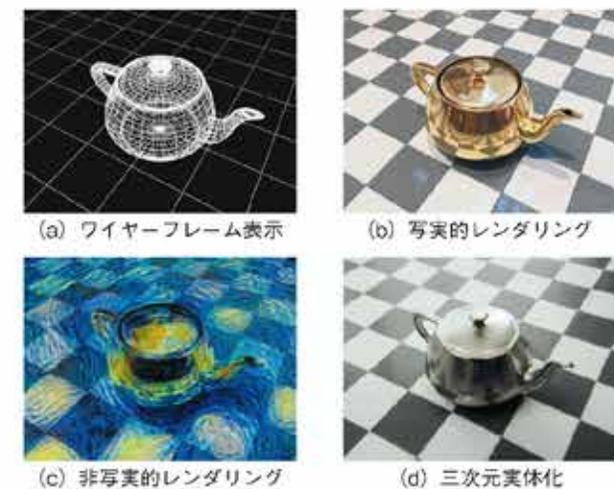
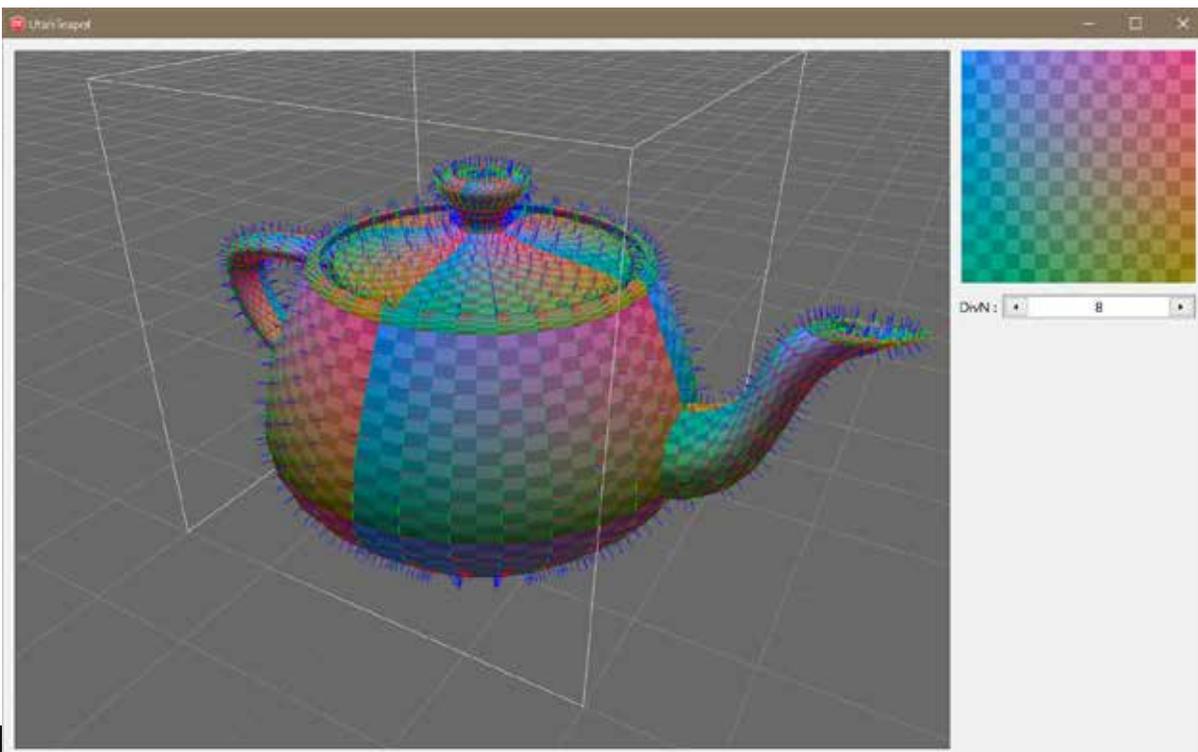


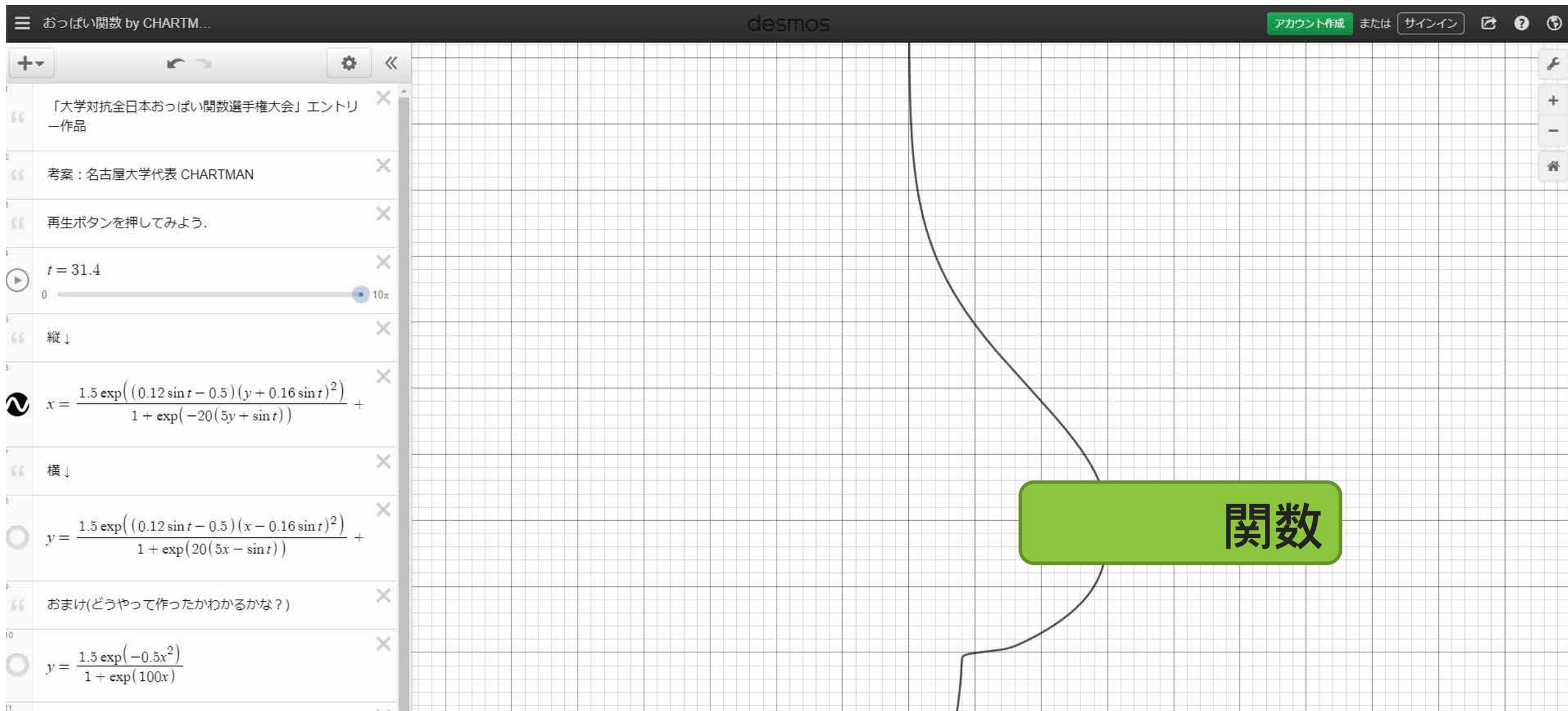
図 2.88 Utah ティーポット (a)-(c): ©2016 中山雅紀, 慶應義塾大学 (d): ©1991 斎藤隆文, 高橋時市郎, NTT Seafood Division)

Utah Teapot @ 電子情報通信学会100年史



[youtu. be/CRvwtUCj Rto](https://youtu.be/CRvwtUCjRto)

# 森羅万象を数式で表そうとする賢者



$$\sin x \cos y + \sin y \cos z + \sin z \cos x = 0$$

## 陰関数 . モデリング

§ 陰関数表現 :  $f(x, y, z) = 0$

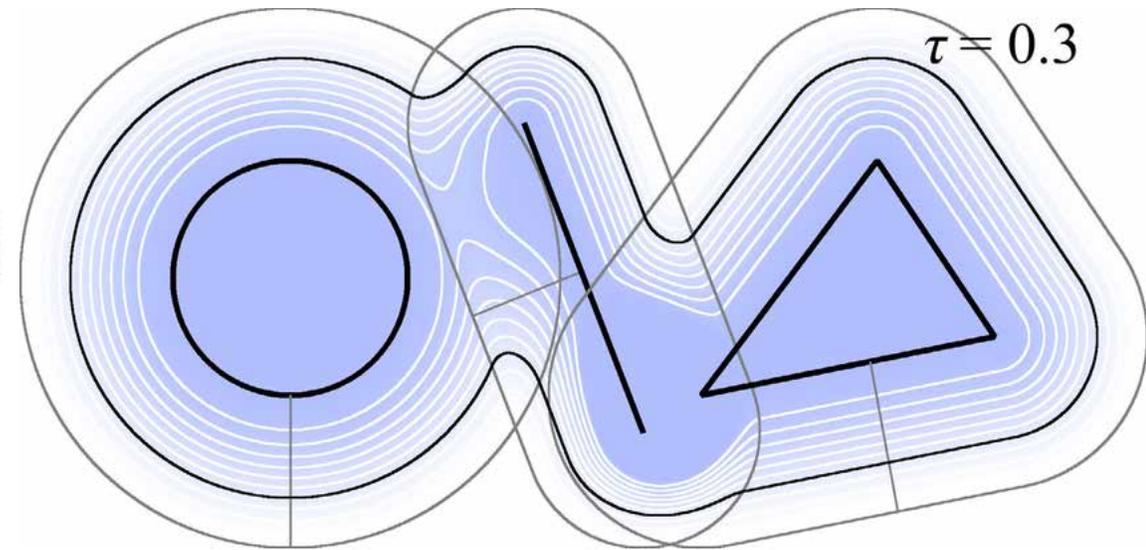
- 等値面 (Isosurface) が表面
- 表面座標は方程式を解くまで分からない
- 計算コスト : 大

§ 設計自由度の向上

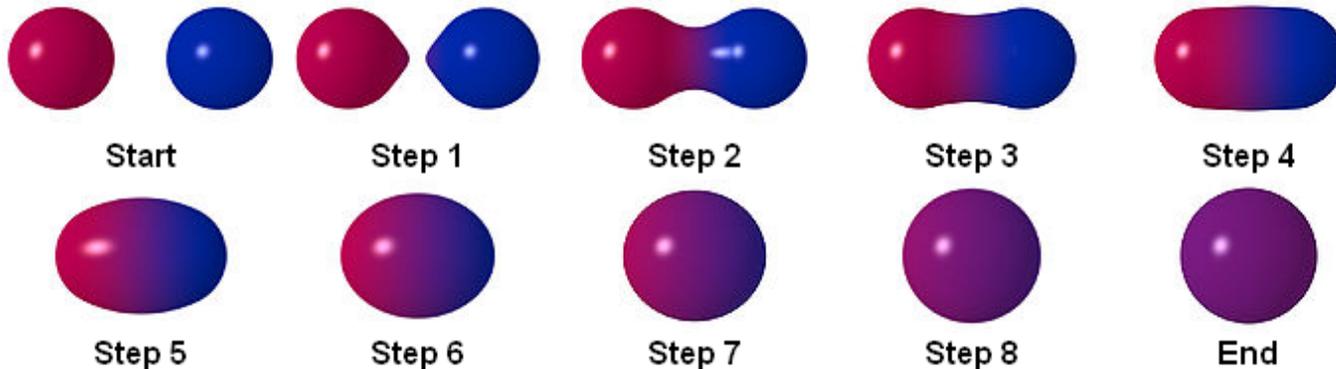
- 陰関数をツギハギ
  - メタボール



© www.bathsheba.com

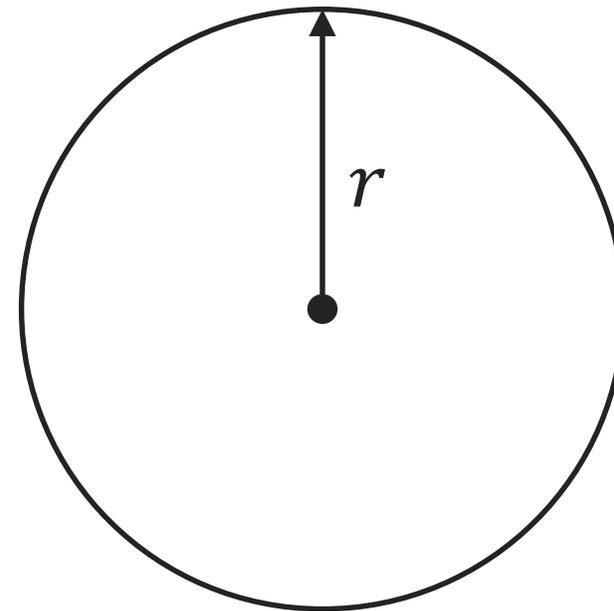
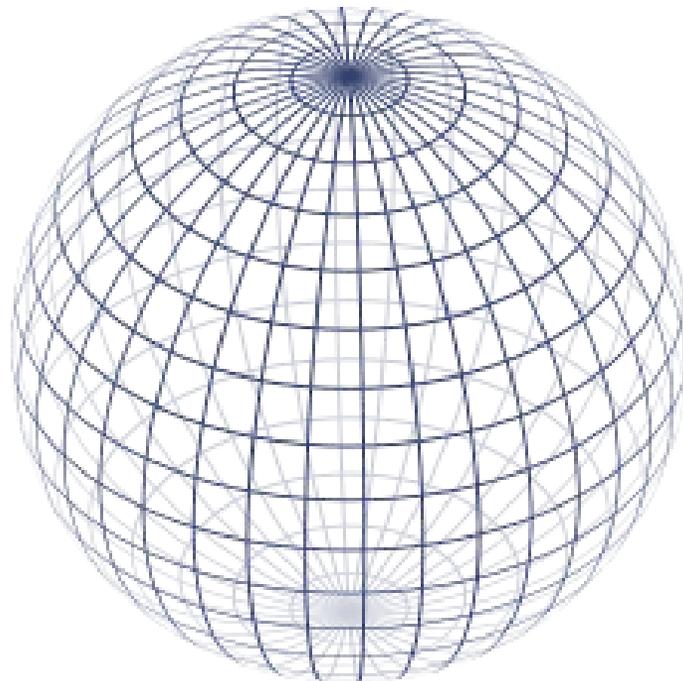
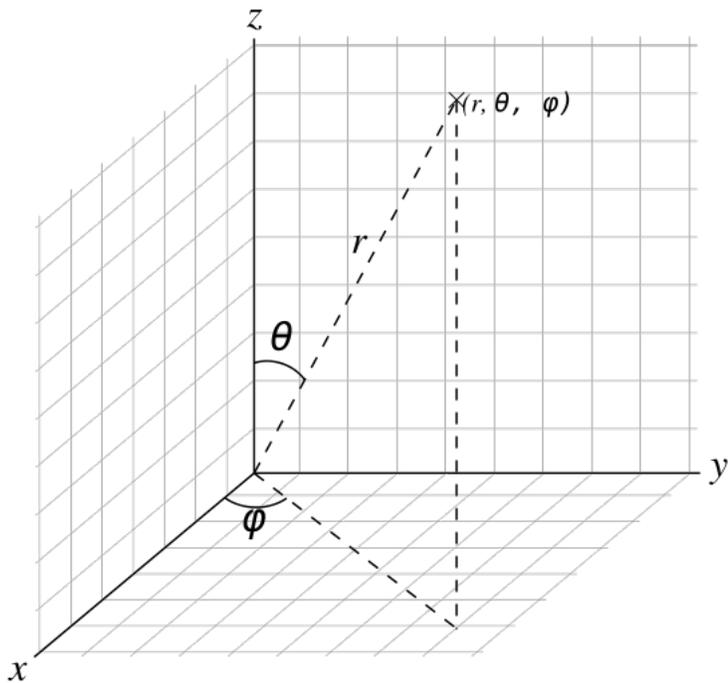


© Level-of-detail visualization of clustered graph layouts



© en.wikipedia.org/wiki/Metaballs

# 陽関数 vs 陰関数 . モデリング



$$\begin{cases} x = r \sin \theta \cos \phi \\ y = r \sin \theta \sin \phi \\ z = r \cos \theta \end{cases}$$

$$x^2 + y^2 + z^2 - r^2 = 0$$

# レンダリング . 陰関数 . モデリング

## § ポリゴン化

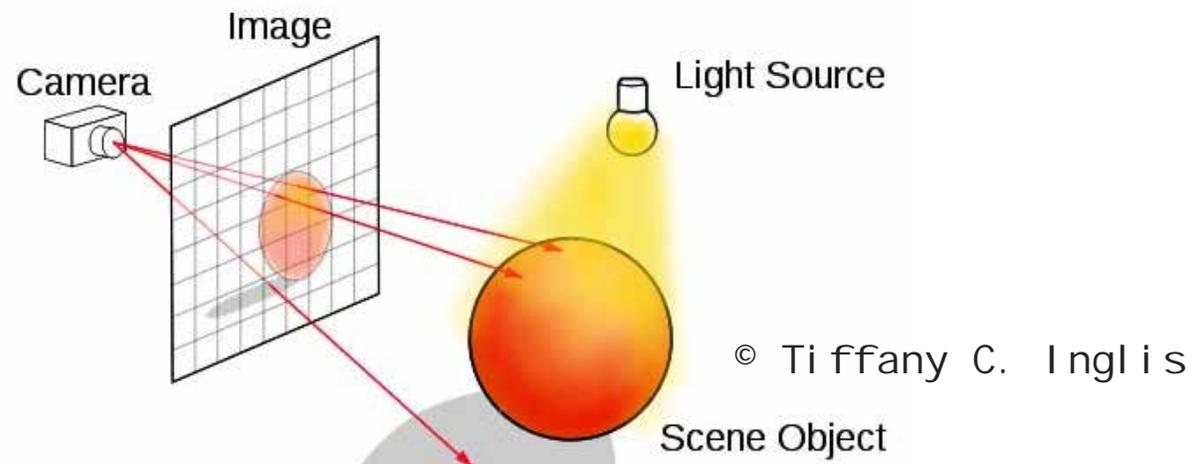
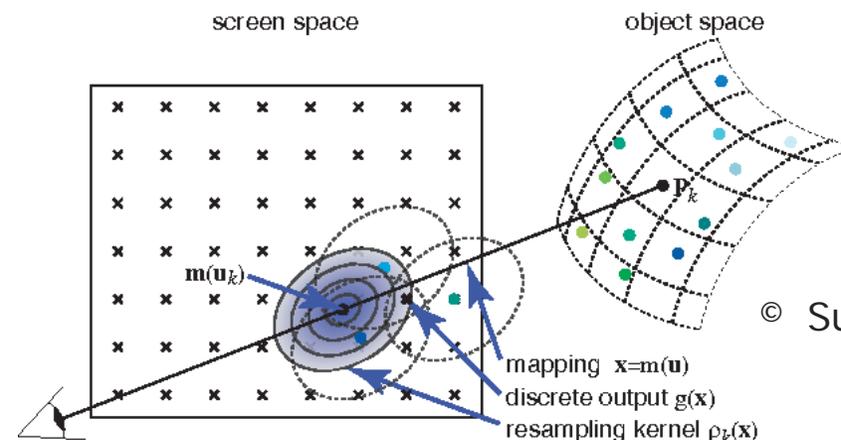
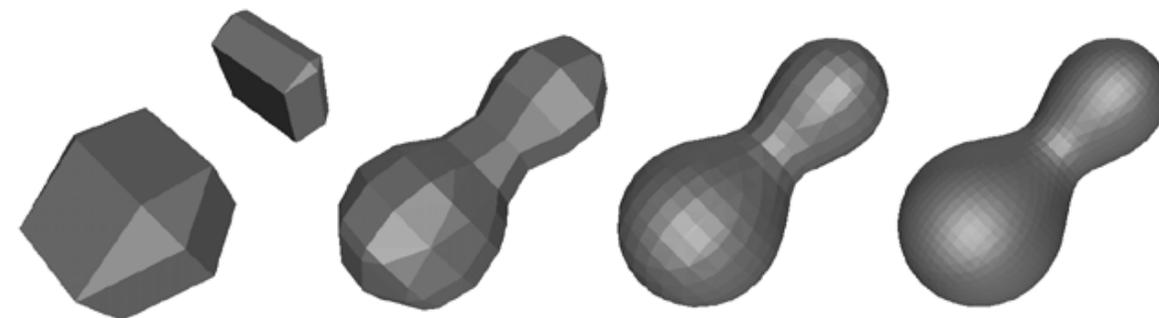
- 等値面にポリゴンを貼る
- 離散化曲面

## § ポイントクラウド化

- 等値面上に点群を発生させる
  - Splatting 法
- 離散化曲面

## § レイトレーシング

- 光線と陰関数の交点を求める
- 連続曲面

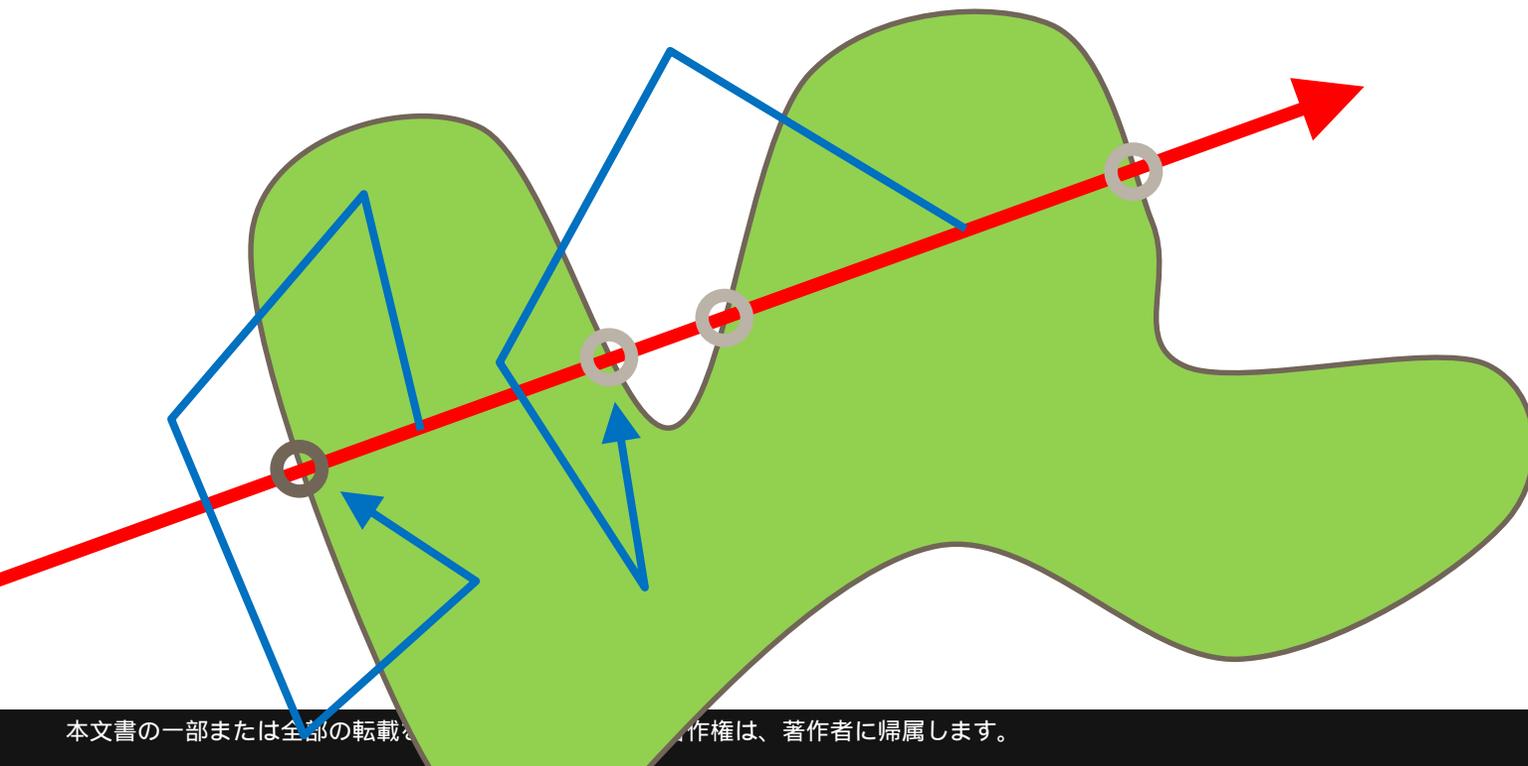


# 交差判定 . レンダリング . 陰関数 . モデリング

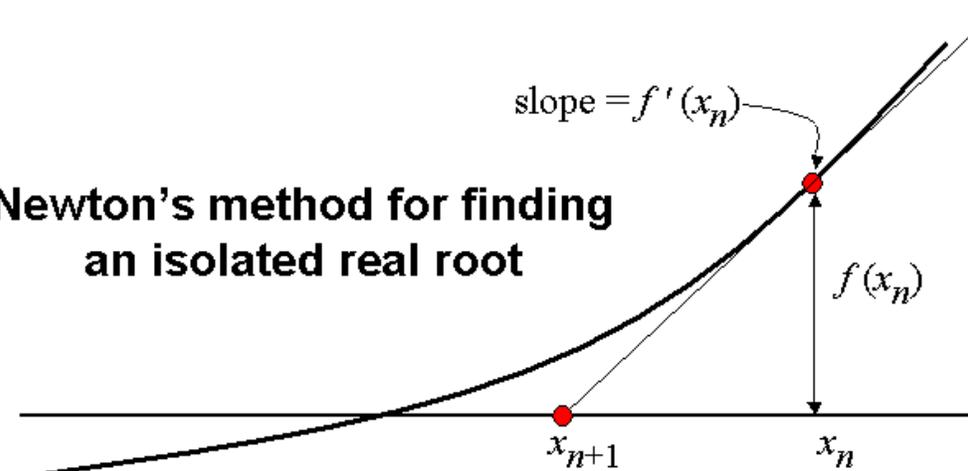
§ 陰関数と視線との交点は複数

- ニュートン法は収束する解を選べない
- 始点に最も近い解を探すのが難しい

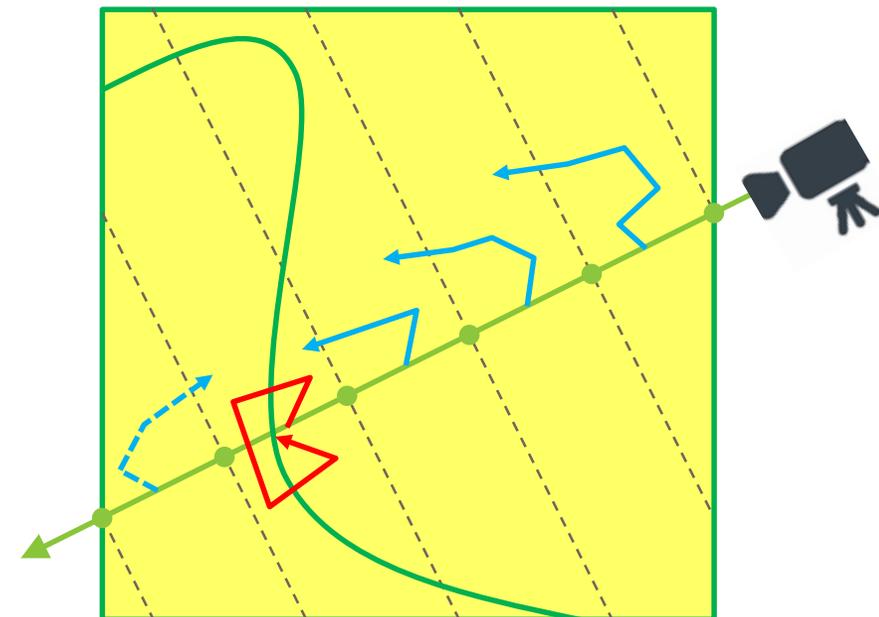
§ 始点から少しずつ伸ばして探索



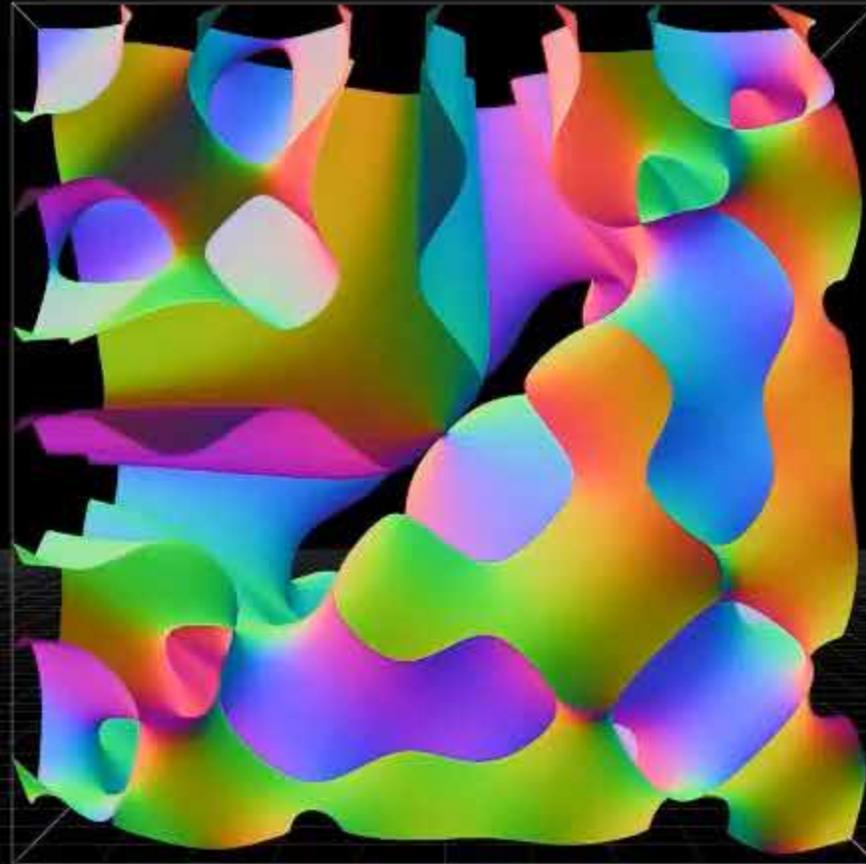
Newton's method for finding an isolated real root



$$x_{n+1} = x_n - \frac{f'(x_n)}{f(x_n)}$$



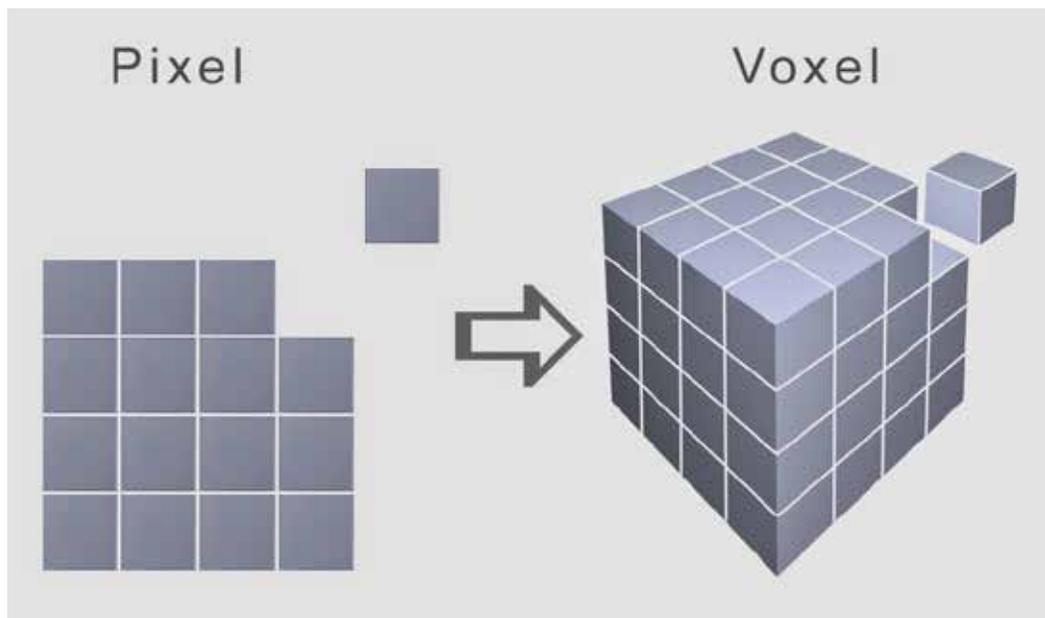
github.com/LUXOPHIA/ImplicitRender



Real-Time Implicit Rendering @ Delphi

# ブロックモデリング

- § 3Dのドット絵
- § ゲーム「Minecraft」で有名
- § ボクセルが**二値**を保持
- § Undoが容易



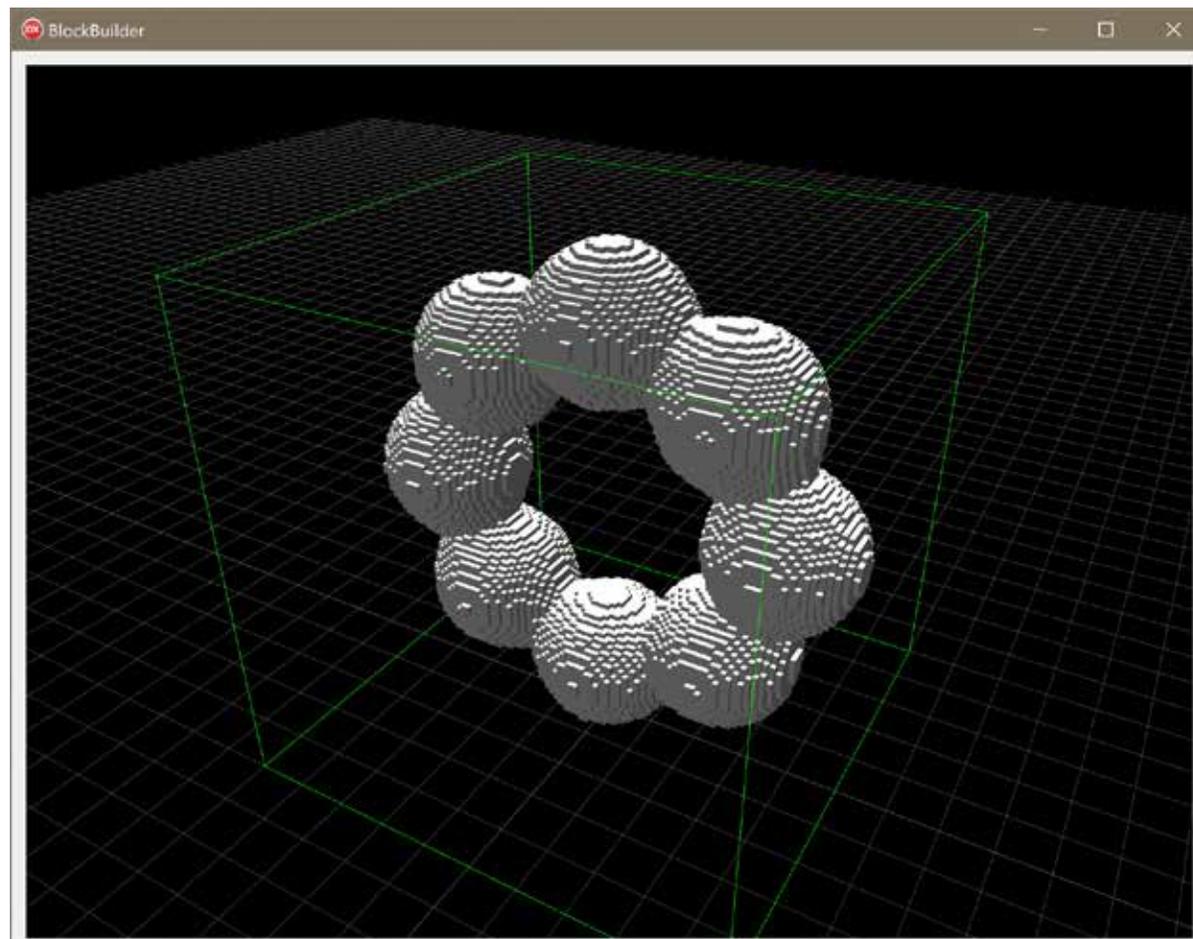
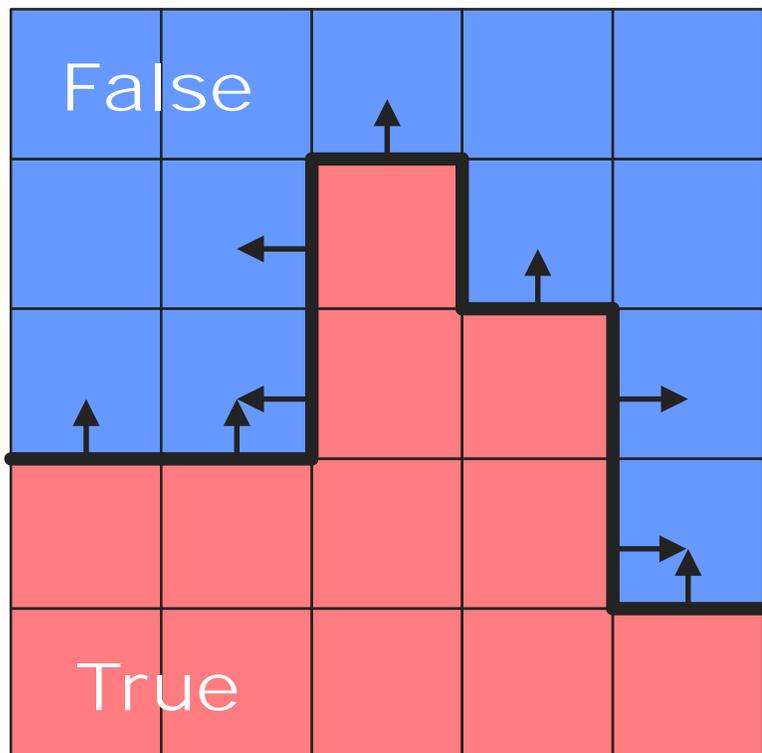
© voxel art. blogspot.jp/2014/04/que-es-voxel-y-el-voxel-art.html

© Super Mario Mash-Up Pack @ Mojang

# 実装 . ブロックモデリング

github.com/LUXOPHIA  
/BlockBuilder

- § 3次元配列内に**存在**フラグを立てて形状を定義
- § フラグの境界にポリゴンを貼る
- § 法線は False の方を向く



# ボクセル配列 .ブロック.モデリング

## § ボクセル値は Boolean

```
procedure TForm1.MakeBlocks;
var
  X, Y, Z :Integer;
  P :TPoint3D;
begin
  with _Blocks do
  begin
    BeginUpdate;

    for Z := 0 to BricsZ-1 do
    begin
      P.Z := 24 * ( ( Z + 0.5 ) / BricsZ - 0.5 );

      for Y := 0 to BricsY-1 do
      begin
        P.Y := 24 * ( ( Y + 0.5 ) / BricsY - 0.5 );

        for X := 0 to BricsX-1 do
        begin
          P.X := 24 * ( ( X + 0.5 ) / BricsX - 0.5 );
          Brics[ X, Y, Z ] := ( Pãodering( P ) < 0 );
        end;
      end;
    end;
  end;
  EndUpdate;
end;
```

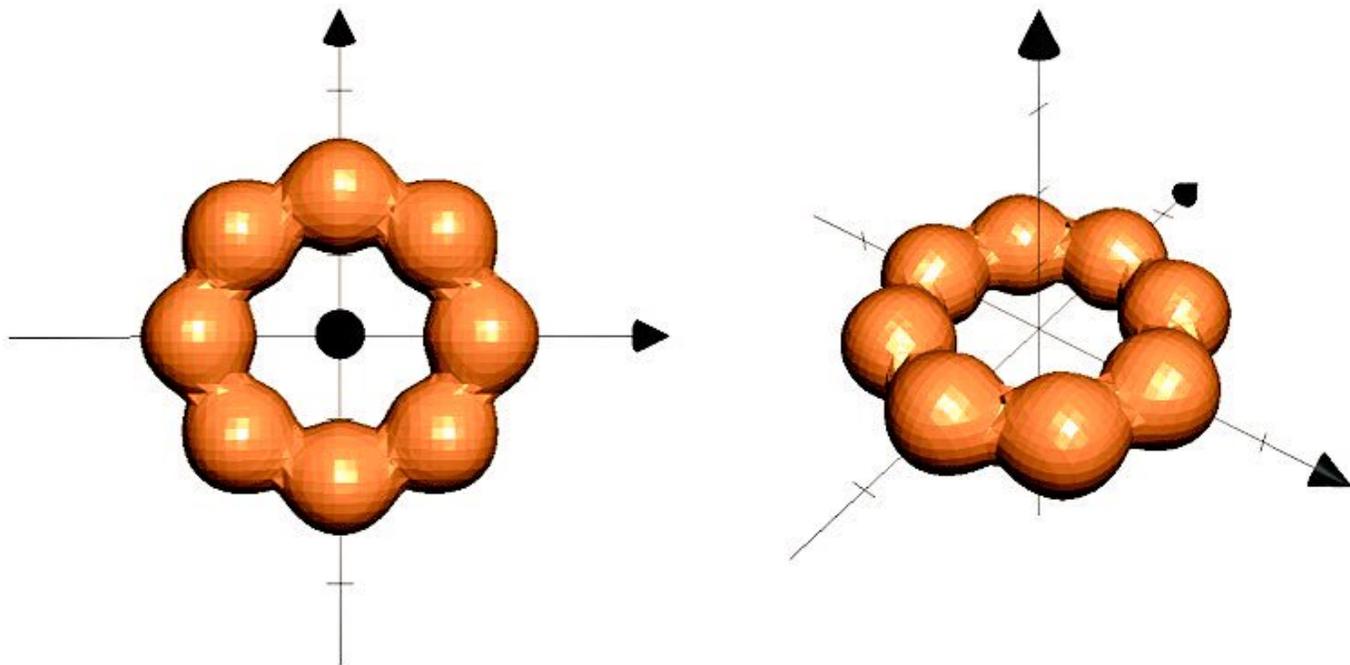
```
function Pãodering( const P_:TPoint3D ) :Single;
var
  X2, Y2, Z2, A :Single;
begin
  X2 := Sqr( P_.X );
  Y2 := Sqr( P_.Y );
  Z2 := Sqr( P_.Z );

  A := Abs( Sqr( ( X2 - Y2 ) / ( X2 + Y2 ) ) - 0.5 );

  Result := Sqr( Sqr( X2 + Y2 ) - 8 - A ) + Z2 - Sqr( 2 + 3 * A );
end;
```

# ポン・デ・リング関数

単一の数式によるポン・デ・リング (3D)



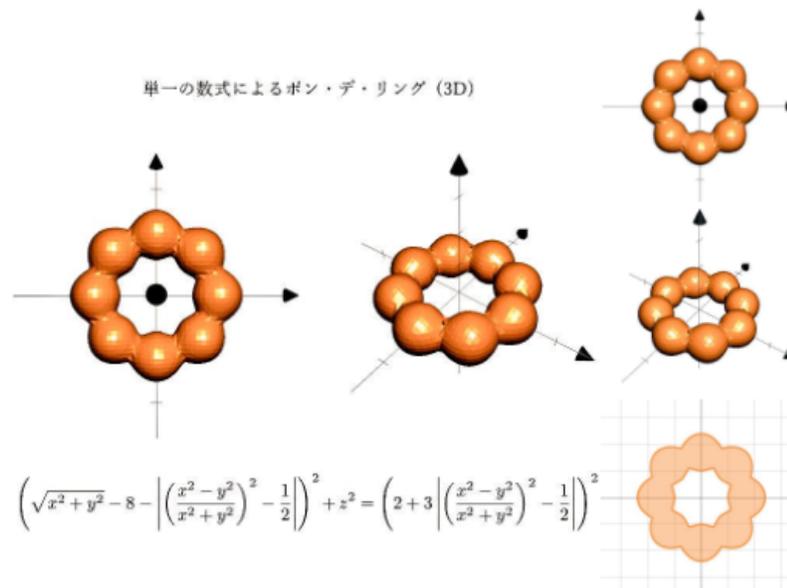
$$\left( \sqrt{x^2 + y^2} - 8 - \left| \left( \frac{x^2 - y^2}{x^2 + y^2} \right)^2 - \frac{1}{2} \right| \right)^2 + z^2 = \left( 2 + 3 \left| \left( \frac{x^2 - y^2}{x^2 + y^2} \right)^2 - \frac{1}{2} \right| \right)^2$$



CHARTMAN  
@CHARTMANq

フォロー中

3時間に及ぶ試行錯誤の末、たった1つの数式で3Dの「ポン・デ・リング」を表示することに成功。(2Dのものもあるよ)



21:51 - 2017年12月27日

37,237件のリツイート 70,747件のいいね

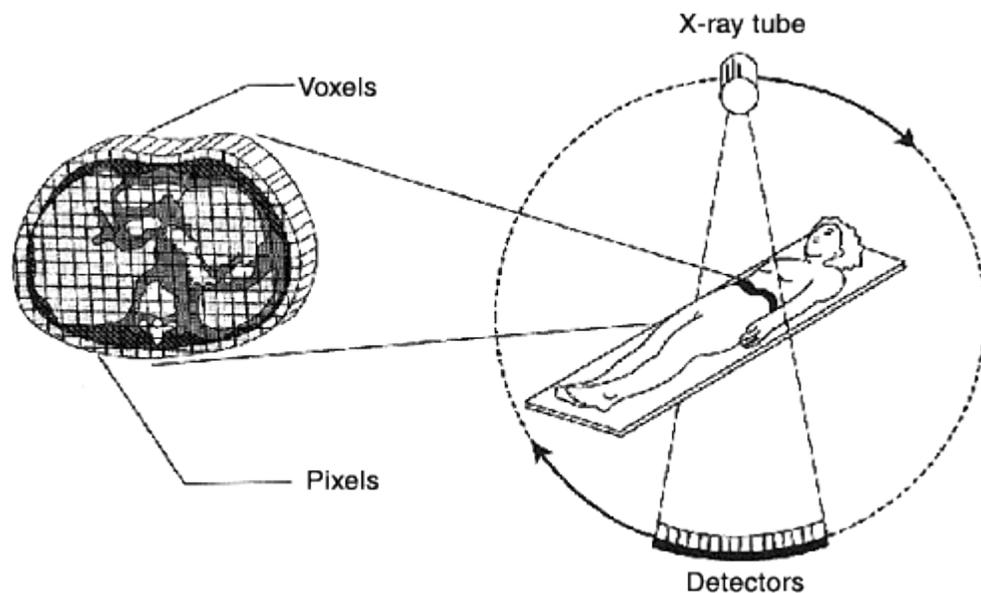


ミスタードーナツ

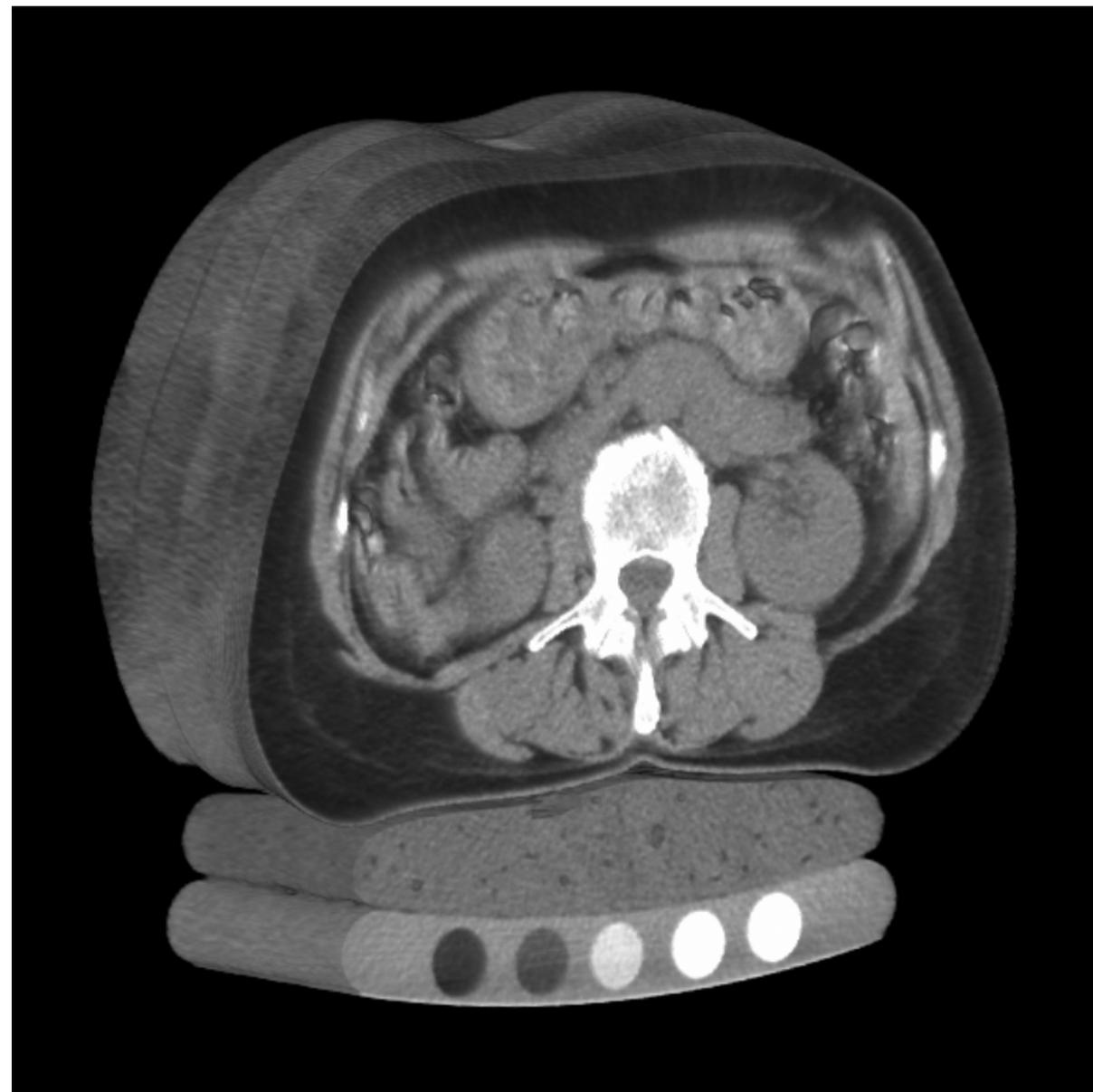
91 37,237 70,747

# ボリュームモデリング

- § 3次元画像
- § 医療用3DCTなどで有名
- § ボクセルが**実数値**を保持
- § 離散化陰関数



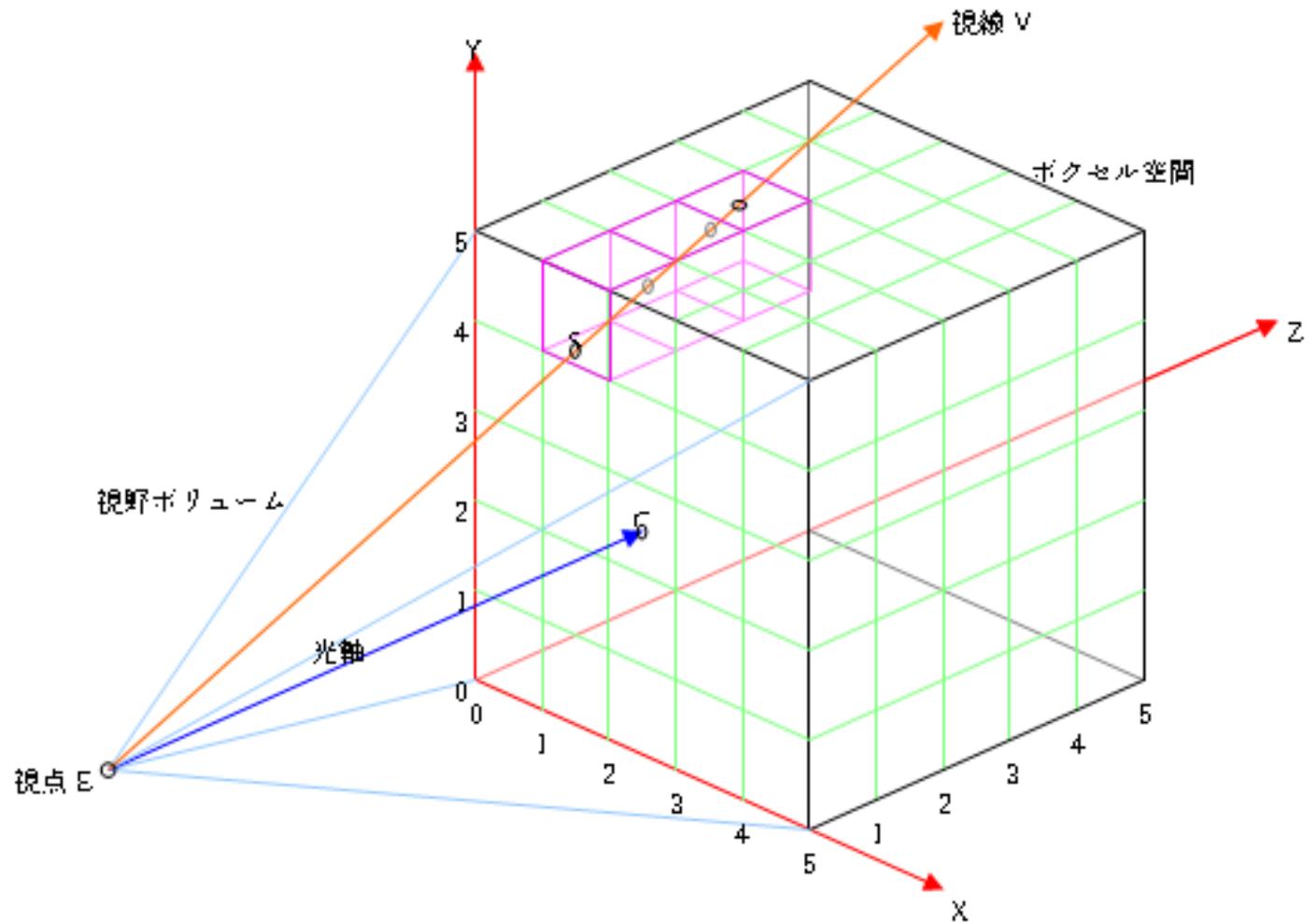
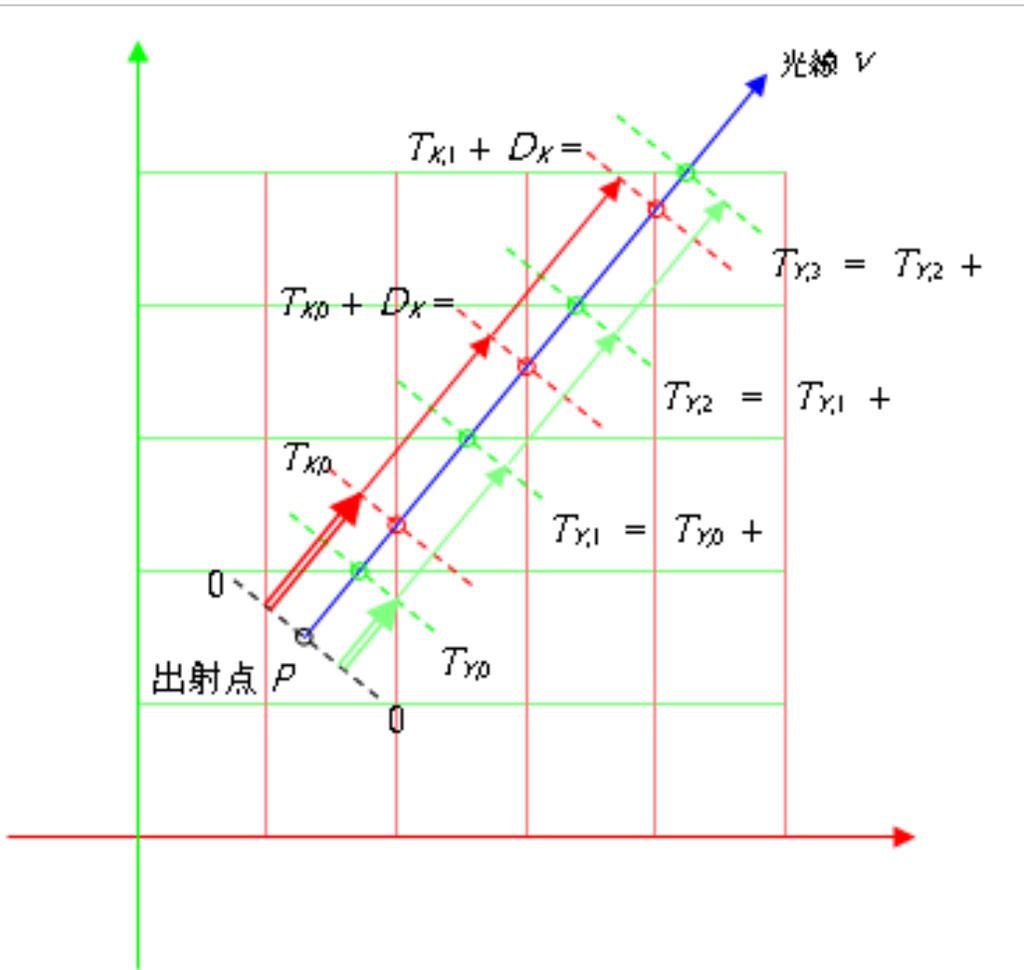
© [www.physicentral.com/explore/action/scans.cfm](http://www.physicentral.com/explore/action/scans.cfm)



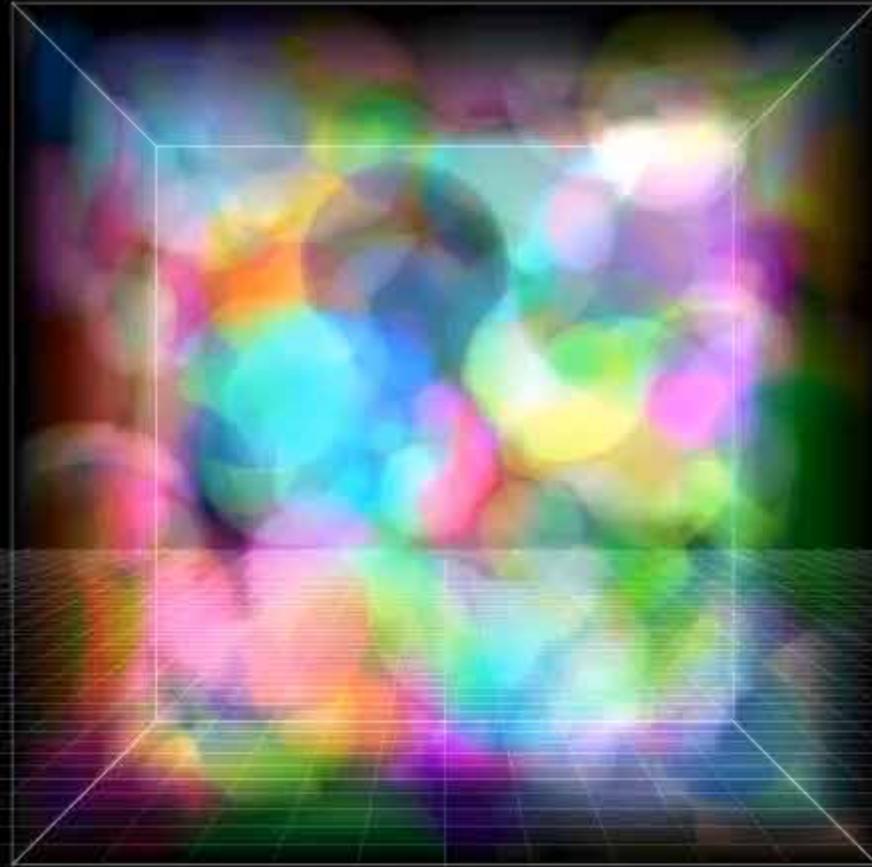
© [en.wikipedia.org/wiki/Volume\\_rendering](http://en.wikipedia.org/wiki/Volume_rendering)

# レイトレーシング .ボリューム.モデリング

## § 3D-DDA : 3D Discontinuous Deformation Analysis



github.com/LUXOPHIA/VolumeRender



Real-Time Volume Rendering @ Delphi

# 実装 .ボリューム .モデリング

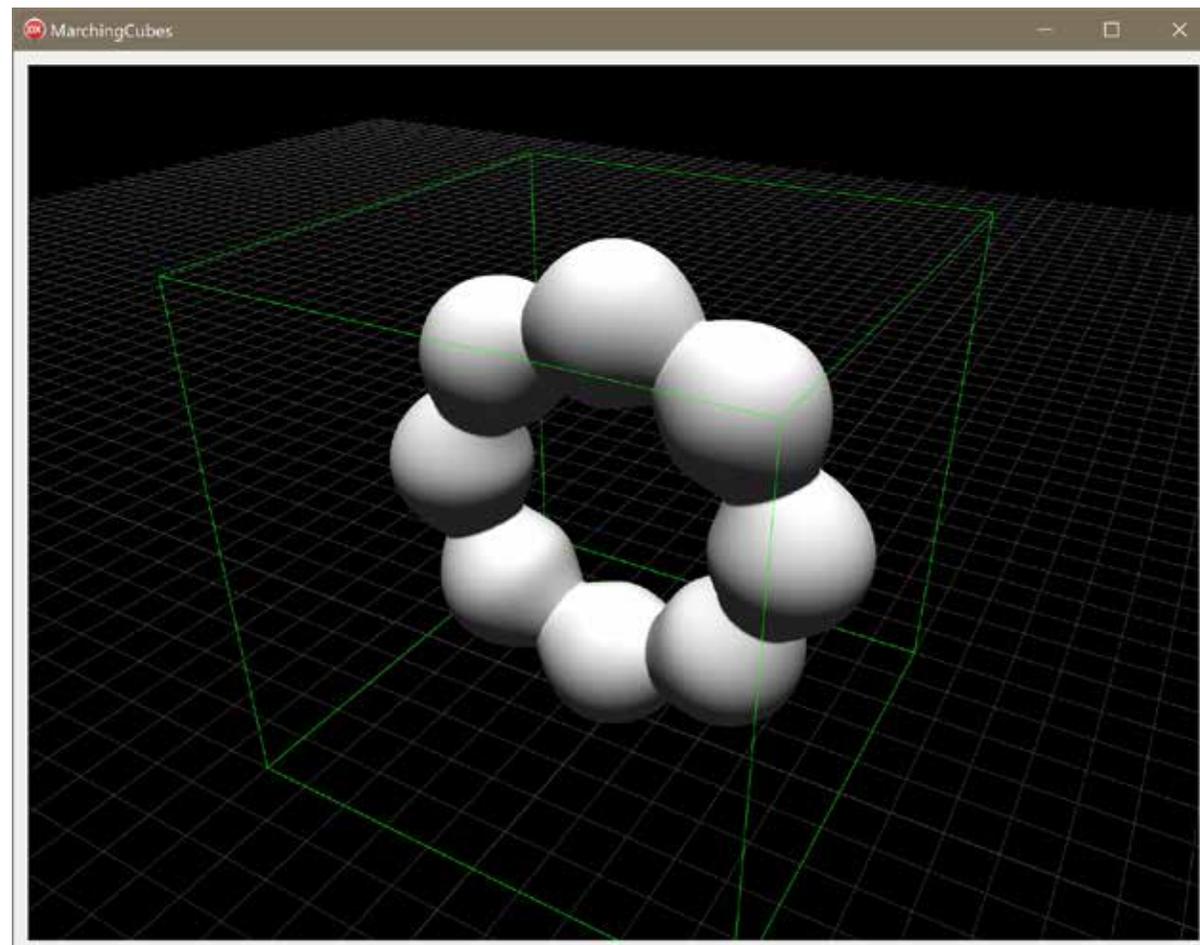
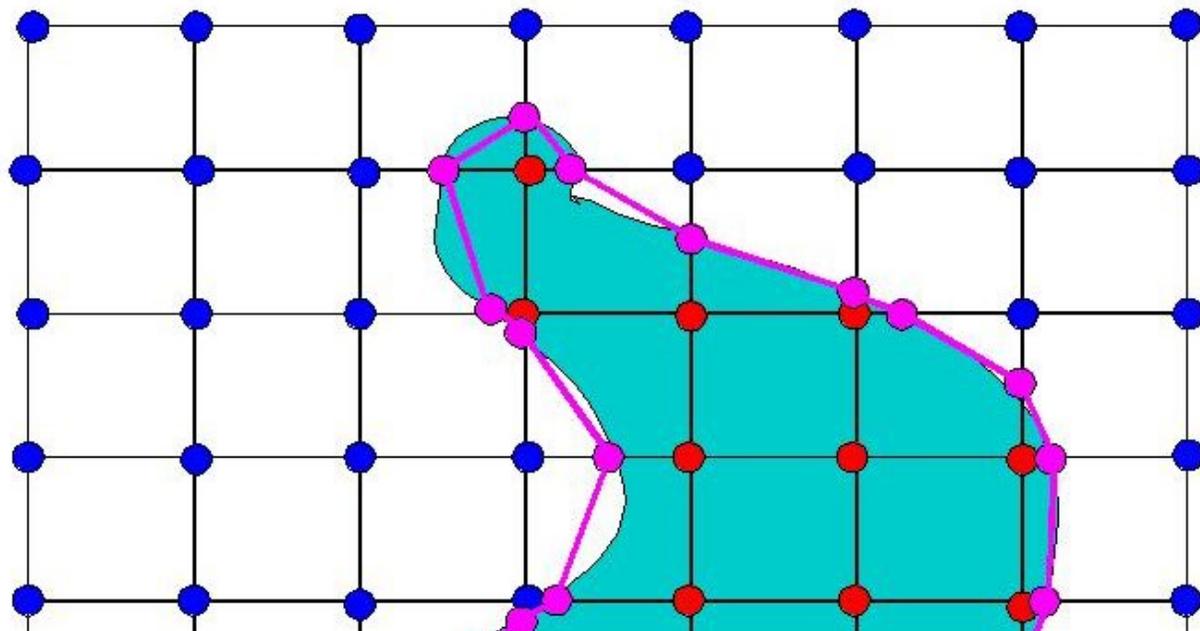
github.com/LUXOPHIA  
/MarchingCubes

§ 3次元配列内に**存在率**を指定して形状を定義

§ ボクセルが**実数値**を保持

§ 等値面にポリゴンを貼る

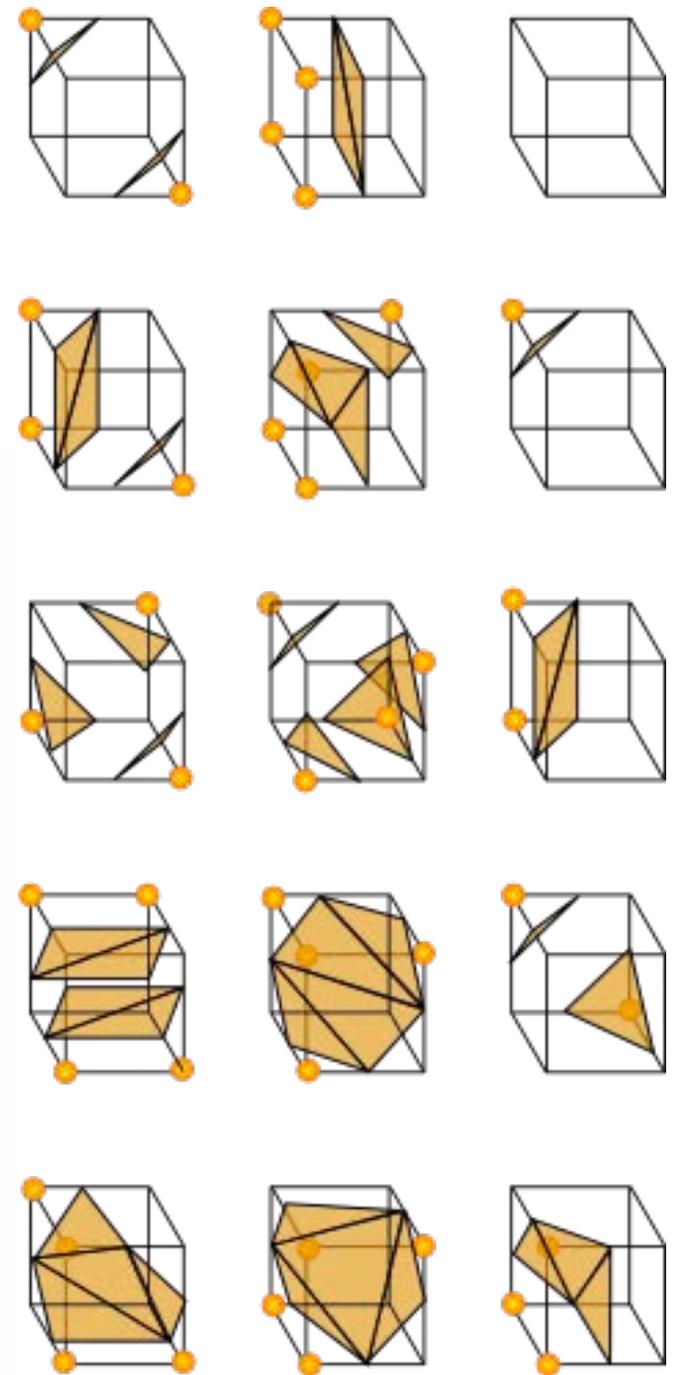
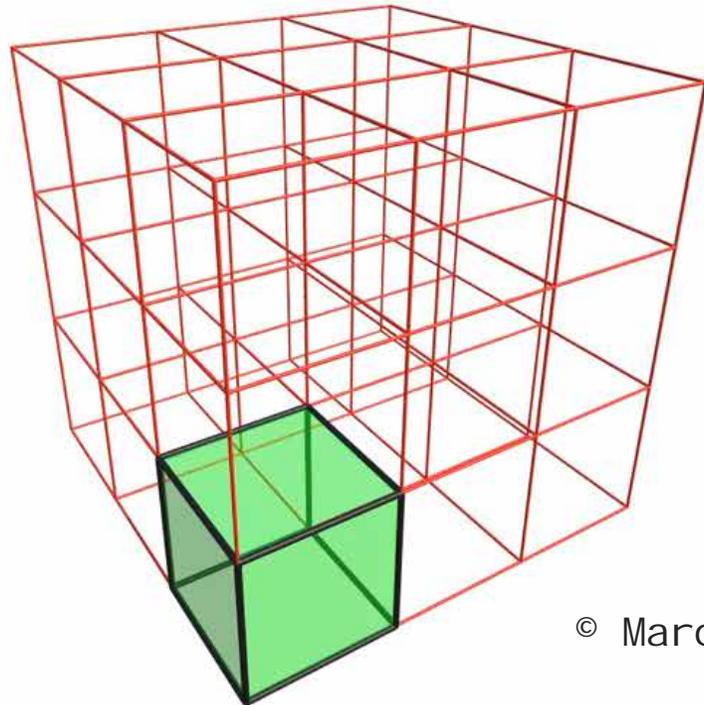
- **マーチングキューブ法**



© [www.cs.carleton.edu/cs\\_comps/0405/shape/](http://www.cs.carleton.edu/cs_comps/0405/shape/)

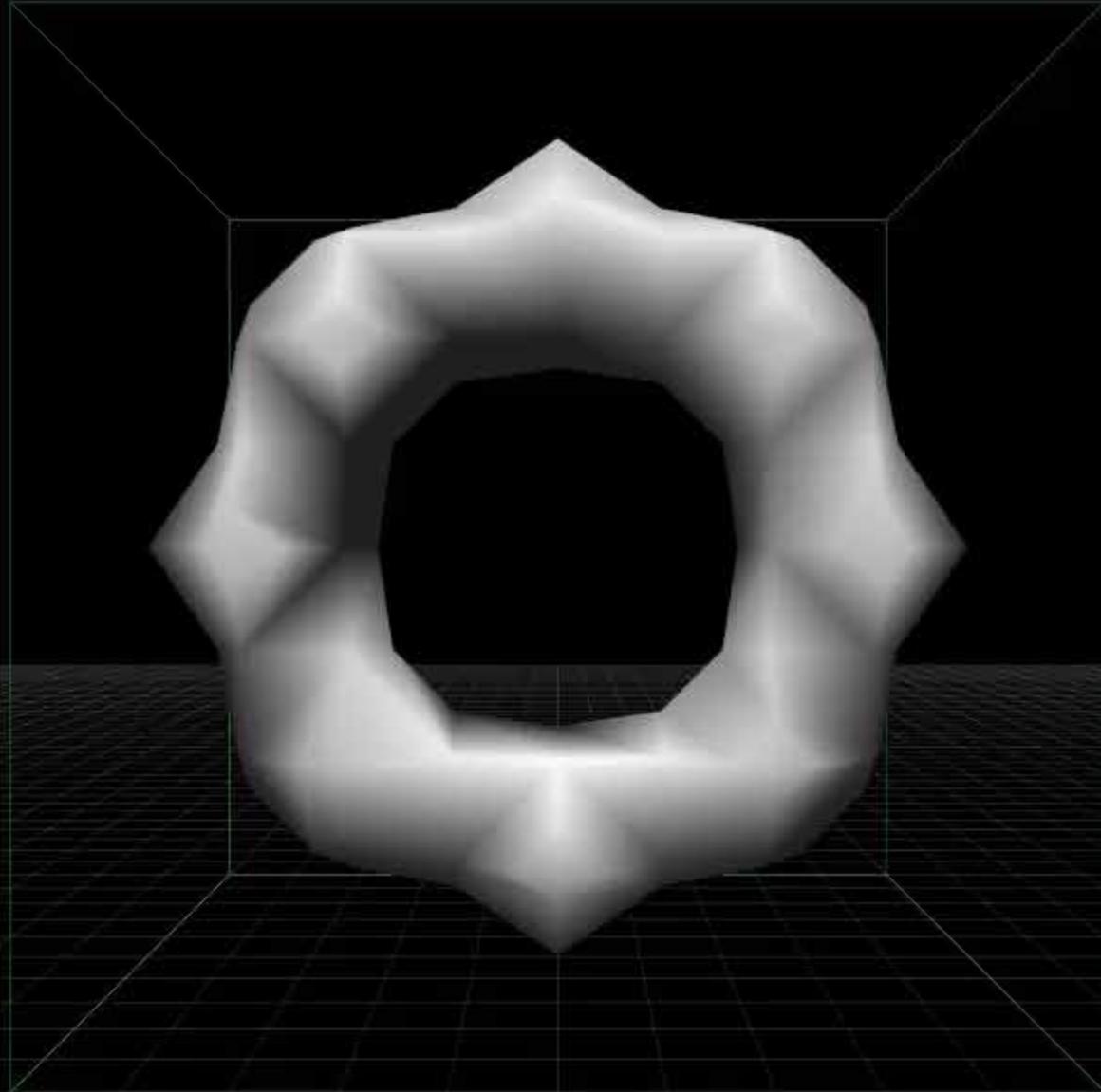
# マーチングキューブ法 .ボリューム.モデリング

- § ボクセルの角の 8 頂点は  
等値面の中か外かのどちらかに属する
- § 8 頂点の内外の組合わせは 256通り がある
- § ポリゴン構造としては 15種類 に分けられる





[github.com/LUXOPHIA/MarchingCubes](https://github.com/LUXOPHIA/MarchingCubes)



# ボクセル配列 .ボリューム .モデリング

## § ボクセル値は Single

```
procedure TForm1.MakeVoxels;
var
  X, Y, Z :Integer;
  P :TPoint3D;
begin
  with _Marcubes do
  begin
    with Grids do
    begin
      for Z := -1 to GridsZ do
      begin
        P.Z := 24 * ( Z / BricsZ - 0.5 );

        for Y := -1 to GridsY do
        begin
          P.Y := 24 * ( Y / BricsY - 0.5 );

          for X := -1 to GridsX do
          begin
            P.X := 24 * ( X / BricsX - 0.5 );
            Grids[ X, Y, Z ] := Pãodering( P );
          end;
        end;
      end;
    end;
  end;
  MakeModel; // ポリゴンモデル生成
end;
```

# ボクセルの標本点はどこ？

## § ピクセル

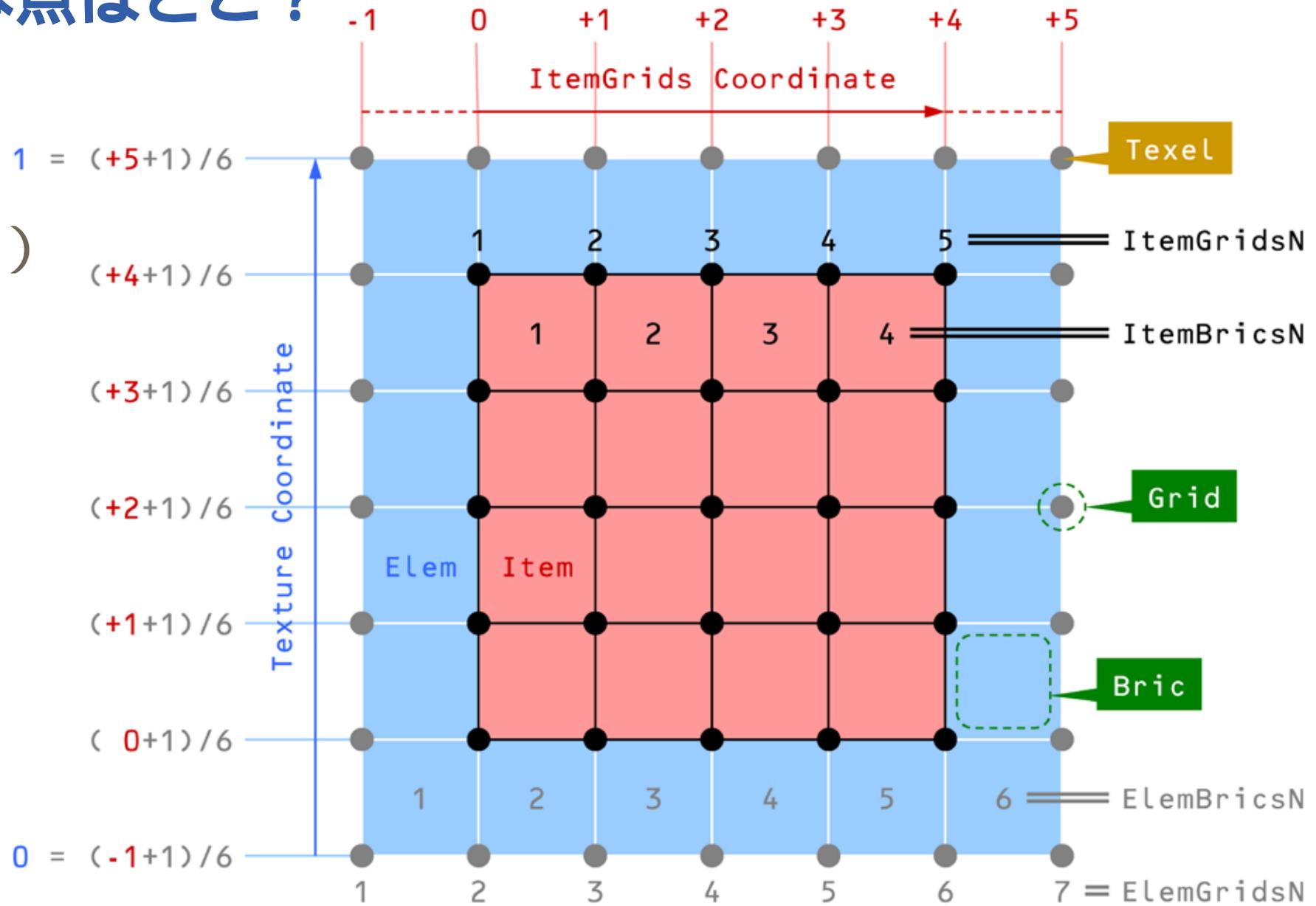
- 体中心

## § ボクセル (Bric)

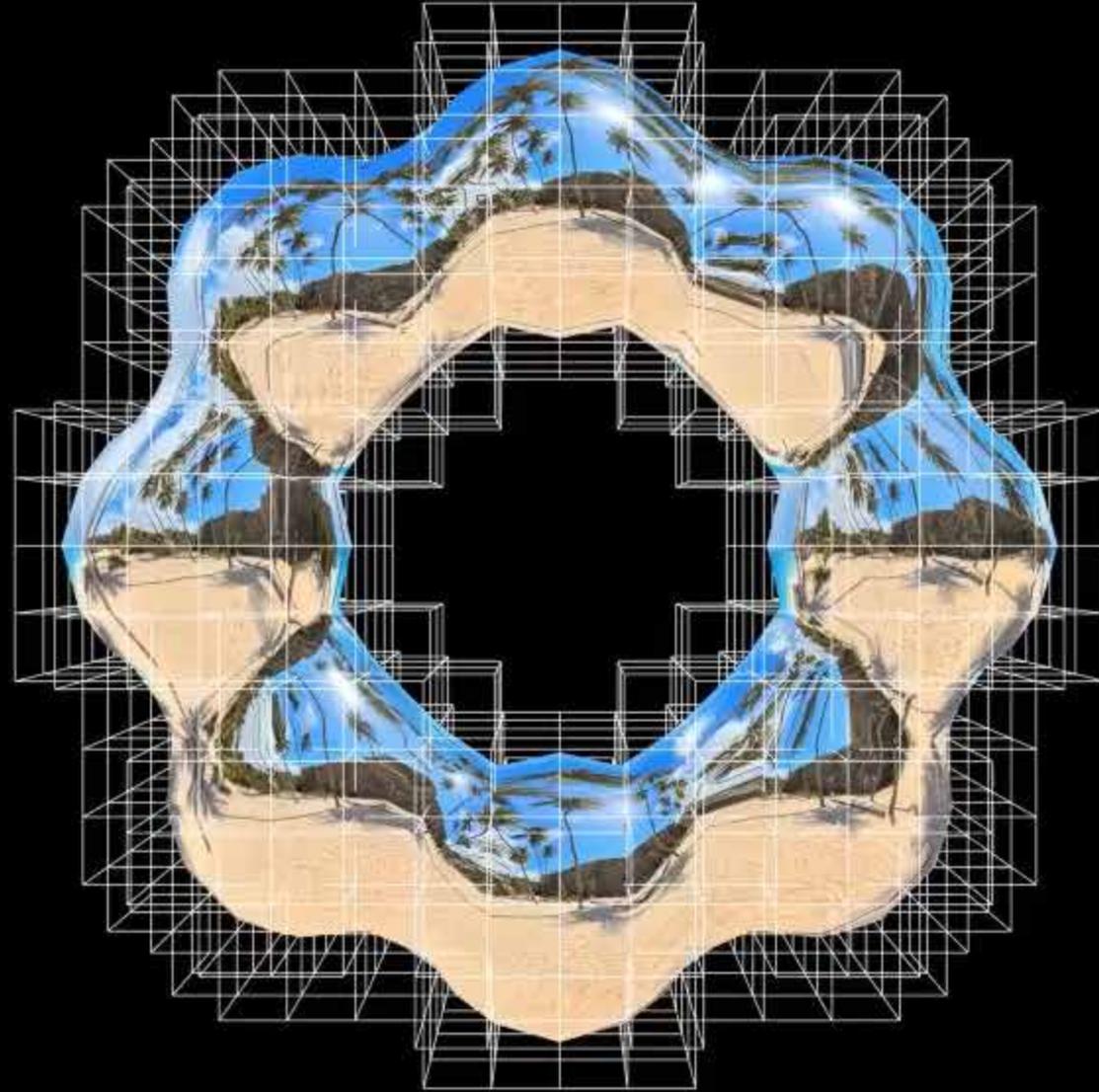
- 体中心

## § 格子点 (Grid)

- ボクセルの角



github.com/LUXOPHIA/MarchingCubes\_GPU



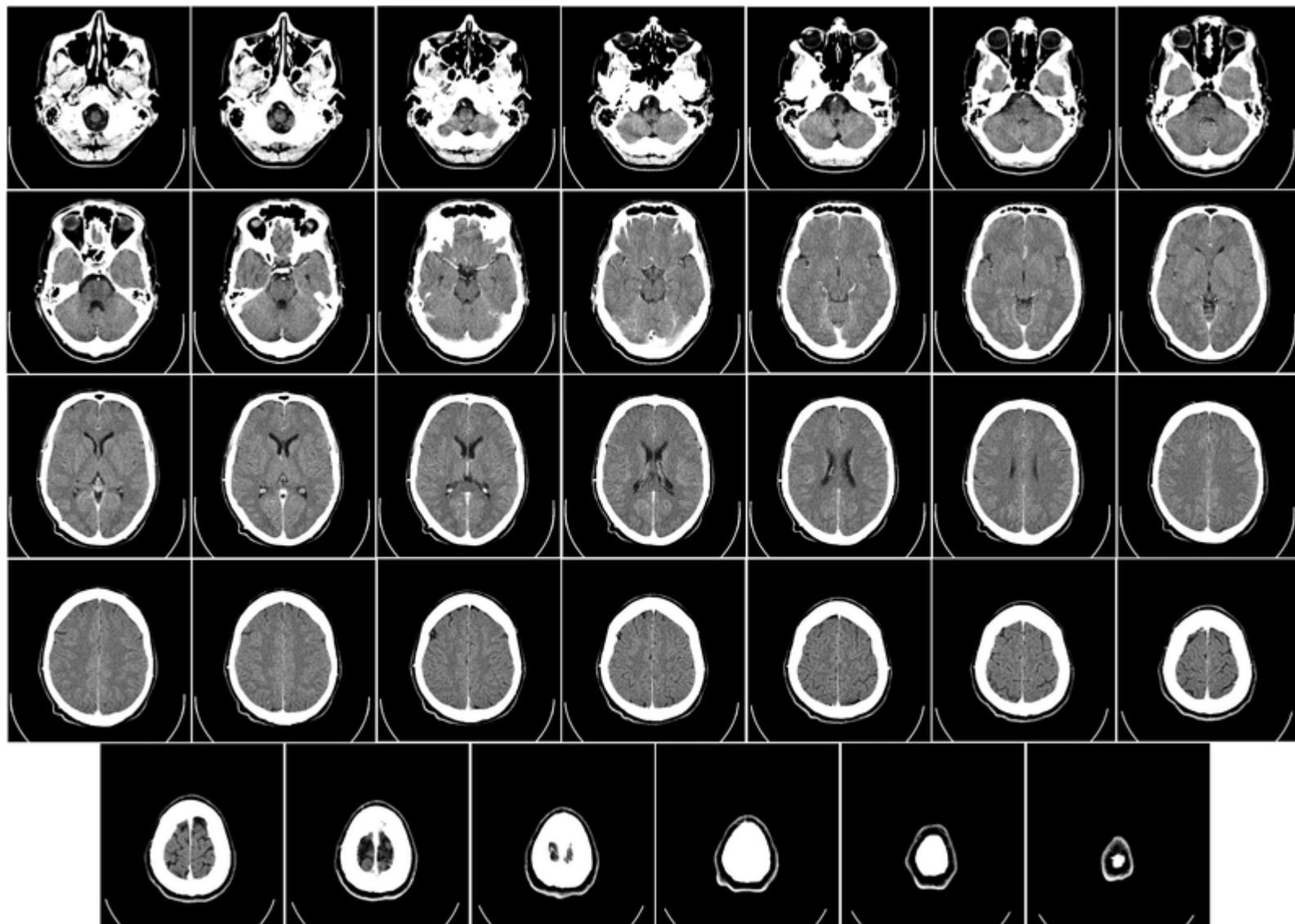
# ポリゴンテーブル.マーチングキューブ法.ポリューム.モデリング

## § GLSL 言語は多次元配列や動的配列に未対応

LUX. GPU. OpenGL. Shaper. Preset. TMarcubes. Faces\_G. gl sl

```
//%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%% 【定数】  
const TTrias TRIASTABLE[ 256 ] = TTrias[ 256 ](  
  TTrias( 0, ivec3[ 5 ]( ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 1, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 4, 8 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 1, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 9, 6 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 9, 4, 8 ), ivec3( 6, 4, 9 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 1, ivec3[ 5 ]( ivec3( 1, 10, 4 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 1, 8, 0 ), ivec3( 10, 8, 1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 9, 6 ), ivec3( 4, 1, 10 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 1, 9, 6 ), ivec3( 1, 10, 9 ), ivec3( 10, 8, 9 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 1, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 11, 1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 11, 1 ), ivec3( 0, 4, 8 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 11, 1 ), ivec3( 9, 11, 0 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 4, 11, 1 ), ivec3( 4, 8, 11 ), ivec3( 8, 9, 11 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 10, 4 ), ivec3( 11, 10, 6 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 8, 0 ), ivec3( 6, 11, 8 ), ivec3( 11, 10, 8 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 10, 4 ), ivec3( 0, 9, 10 ), ivec3( 9, 11, 10 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 9, 11, 8 ), ivec3( 8, 11, 10 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 1, ivec3[ 5 ]( ivec3( 8, 5, 2 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 5, 2 ), ivec3( 4, 5, 0 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 9, 6, 0 ), ivec3( 2, 8, 5 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 9, 5, 2 ), ivec3( 9, 6, 5 ), ivec3( 6, 4, 5 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 4, 1, 10 ), ivec3( 8, 5, 2 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 5, 1, 10 ), ivec3( 5, 2, 1 ), ivec3( 2, 0, 1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 0, 9 ), ivec3( 4, 1, 10 ), ivec3( 2, 8, 5 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 4, ivec3[ 5 ]( ivec3( 1, 10, 5 ), ivec3( 6, 1, 5 ), ivec3( 6, 5, 2 ), ivec3( 6, 2, 9 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 2, ivec3[ 5 ]( ivec3( 6, 11, 1 ), ivec3( 2, 8, 5 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 5, 2 ), ivec3( 0, 4, 5 ), ivec3( 1, 8, 11 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 0, 11, 1 ), ivec3( 0, 9, 11 ), ivec3( 2, 8, 5 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 4, ivec3[ 5 ]( ivec3( 2, 9, 11 ), ivec3( 2, 11, 4 ), ivec3( 2, 4, 5 ), ivec3( 1, 4, 11 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),  
  TTrias( 3, ivec3[ 5 ]( ivec3( 10, 6, 11 ), ivec3( 10, 4, 6 ), ivec3( 8, 5, 2 ), ivec3( -1, -1, -1 ), ivec3( -1, -1, -1 ) ) ),
```

## §断層写真の立体化



# DICOM .断層写真

## § 医用画像ファイル形式

No.	Grup	Elem	OriVR	ExpVR	Size	Desc
1	0002	0000	UL	UL	4	File Meta Information Group Length
2	0002	0001	OB	OB	2	File Meta Information Version
3	0002	0002	UI	UI	26	Media Storage SOP Class UID
4	0002	0003	UI	UI	52	Media Storage SOP Instance UID
5	0002	0010	UI	UI	22	Transfer Syntax UID
6	0002	0012	UI	UI	28	Implementation Class UID
7	0008	0005	CS	CS	16	Specific Character Set
8	0008	0008	CS	CS	16	Image Type
9	0008	0016	UI	UI	26	SOP Class UID
10	0008	0018	UI	UI	52	SOP Instance UID
11	0008	0020	DA	DA	8	Study Date
12	0008	0021	DA	DA	8	Series Date
13	0008	0022	DA	DA	8	Acquisition Date
14	0008	0023	DA	DA	8	Content Date
15	0008	0030	TM	TM	10	Study Time
16	0008	0031	TM	TM	10	Series Time
17	0008	0032	TM	TM	10	Acquisition Time
18	0008	0033	TM	TM	10	Content Time
19	0008	0050	SH	SH	10	Accession Number
20	0008	0060	CS	CS	2	Modality
21	0008	0070	LO	LO	4	Manufacturer
22	0008	0080	LO	LO	14	Institution Name
23	0008	0090	PN	PN	66	Referring Physician's Name
24	0008	1010	SH	SH	6	Station Name
25	0008	1030	LO	LO	0	Study Description



NEMA, Suite 900  
1300 North 17<sup>th</sup> Street  
Rosslyn, VA 22209  
Ph: (703) 475-9217  
<http://dicom.nema.org>  
[dicom@medicalimaging.org](mailto:dicom@medicalimaging.org)

DICOM is managed by the [Medical Imaging & Technology Alliance](#) – a division of [NEMA](#)

### The DICOM Standard

#### 6 Registry of DICOM Data Elements

##### Note

For data elements that were present in ACR-NEMA 1.0 and 2.0 and that have been retired, the specifications of Value Representation and Value Multiplicity provided are recommendations for the purpose of interpreting their values in objects created in accordance with earlier versions of this standard. These recommendations are suggested as most appropriate for a particular data element; however, there is no guarantee that historical objects will not violate some requirements or specified VR and/or VM.

Table 6-1. Registry of DICOM Data Elements

Tag	Name	Keyword	VR	VM	
(0008,0001)	Length to End	LengthToEnd	UL	1	RET
(0008,0005)	Specific Character Set	SpecificCharacterSet	CS	1-n	
(0008,0006)	Language Code Sequence	LanguageCodeSequence	SQ	1	
(0008,0008)	Image Type	ImageType	CS	2-n	
(0008,0010)	Recognition Code	RecognitionCode	SH	1	RET
(0008,0012)	Instance Creation Date	InstanceCreationDate	DA	1	
(0008,0013)	Instance Creation Time	InstanceCreationTime	TM	1	
(0008,0014)	Instance Creator UID	InstanceCreatorUID	UI	1	
(0008,0015)	Instance Coercion DateTime	InstanceCoercionDateTime	DT	1	
(0008,0016)	SOP Class UID	SOPClassUID	UI	1	
(0008,0018)	SOP Instance UID	SOPInstanceUID	UI	1	
(0008,001A)	Related General SOP Class UID	RelatedGeneralSOPClassUID	UI	1-n	
(0008,001B)	Original Specialized SOP Class UID	OriginalSpecializedSOPClassUID	UI	1	
(0008,0020)	Study Date	StudyDate	DA	1	
(0008,0021)	Series Date	SeriesDate	DA	1	

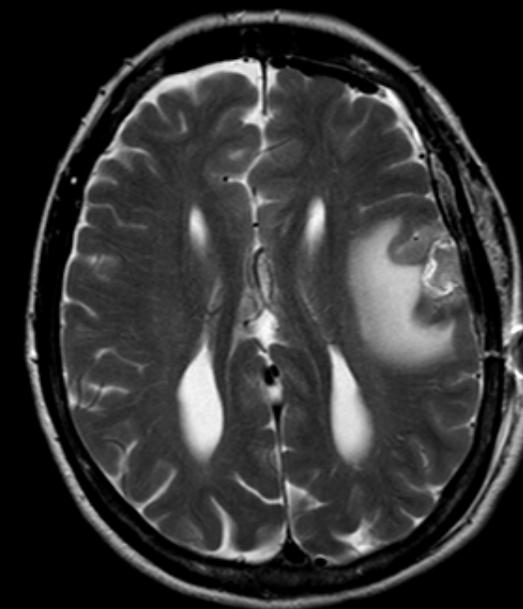
[github.com/LUXOPHIA/DICOMLoader](https://github.com/LUXOPHIA/DICOMLoader)

# 画像 .DICOM.断層写真

## § 画像の読みにも成功

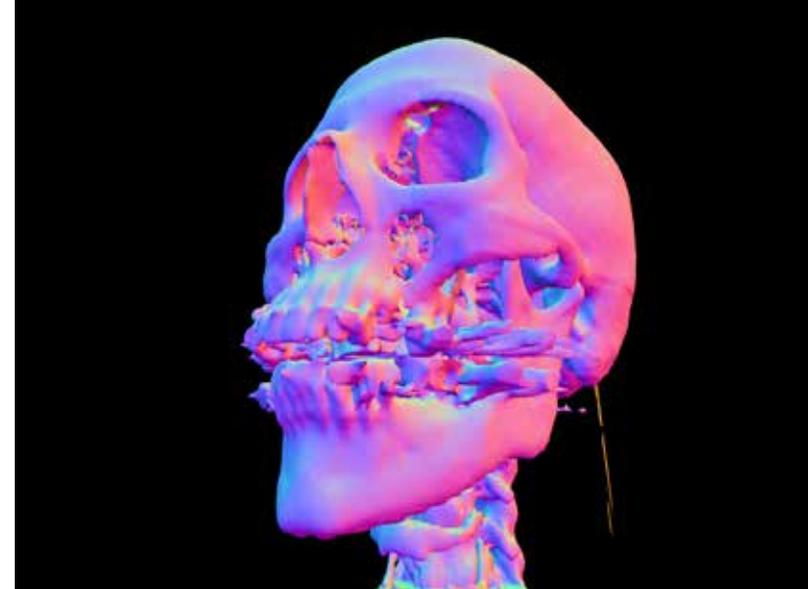


[github.com/LUXOPHIA/DICOMViewer](https://github.com/LUXOPHIA/DICOMViewer)



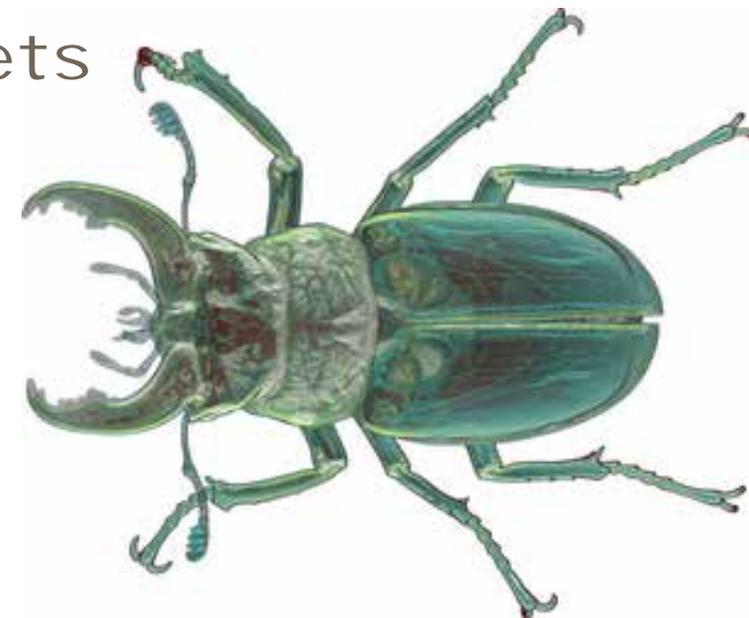
## 3DCTサンプル .断層写真

- § The Stanford volume data archive
  - [graphics.stanford.edu/data/volume\\_data](http://graphics.stanford.edu/data/volume_data)



- § Visualization Group Data sets @ TU Wien
  - [www.cg.tuwien.ac.at/research/vis/datasets](http://www.cg.tuwien.ac.at/research/vis/datasets)

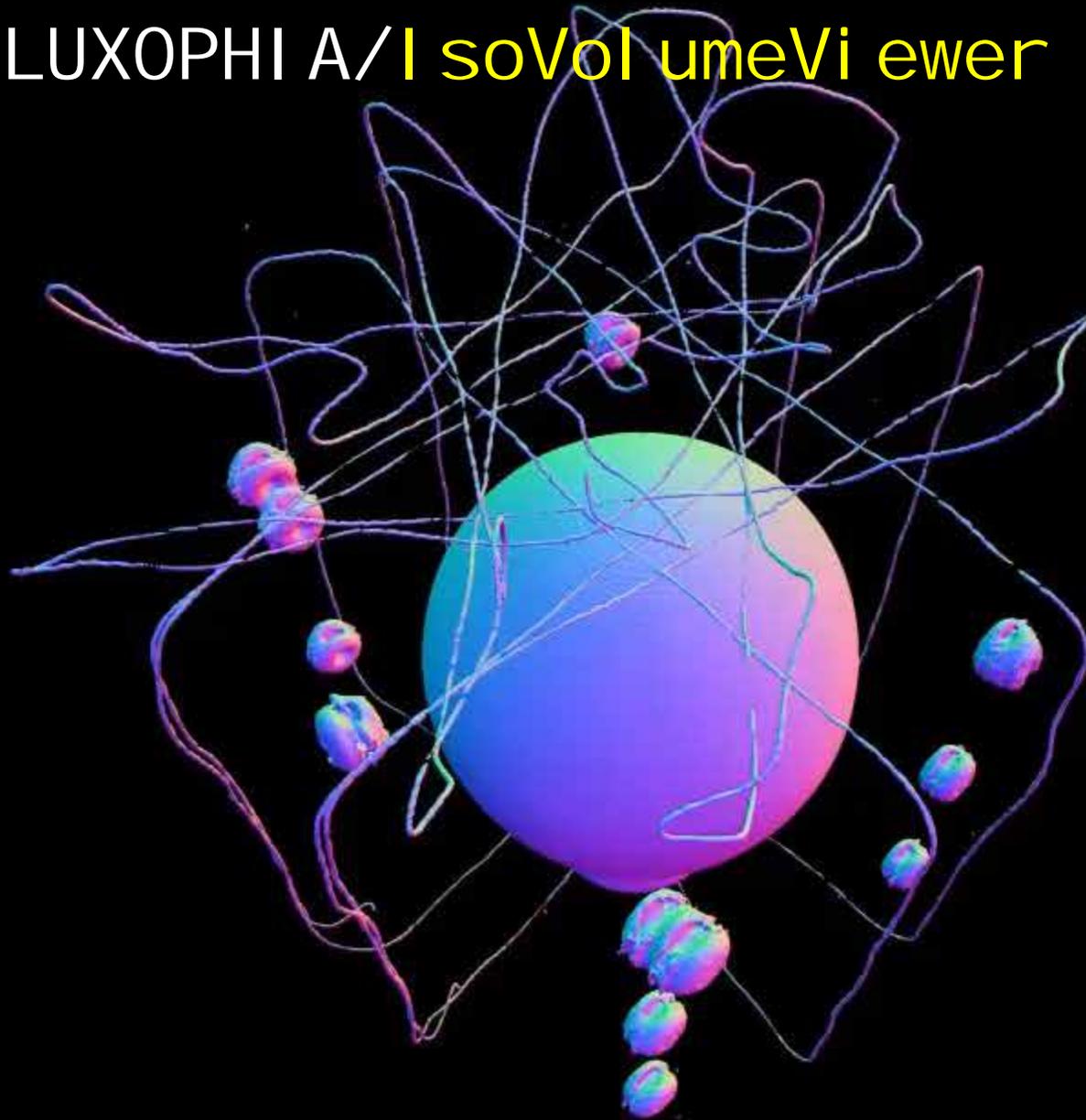
- § Sample Data Sets @ IDAV
  - [graphics.cs.ucdavis.edu/~okreylos/PhDStudies/Spring2000/ECS277](http://graphics.cs.ucdavis.edu/~okreylos/PhDStudies/Spring2000/ECS277)



[github.com/LUXOPHIA/ISOVOLUMEVIEWER](https://github.com/LUXOPHIA/ISOVOLUMEVIEWER)



github.com/LUXOPHIA/ISOVolumeViewer

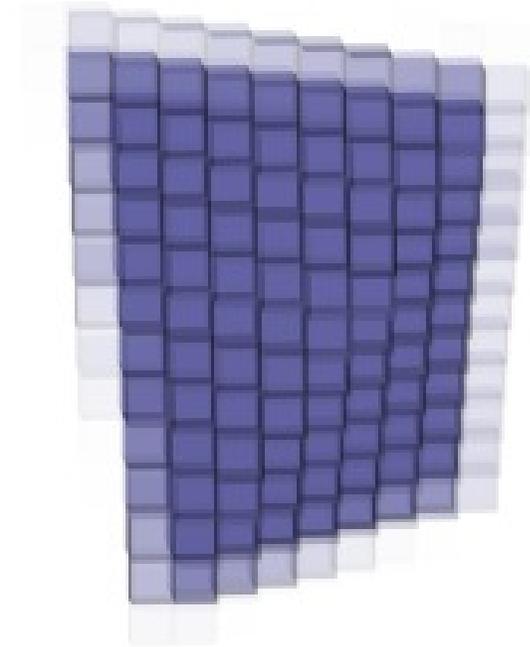
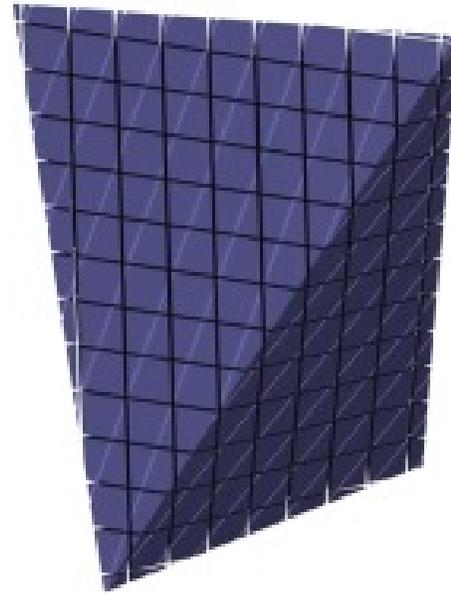
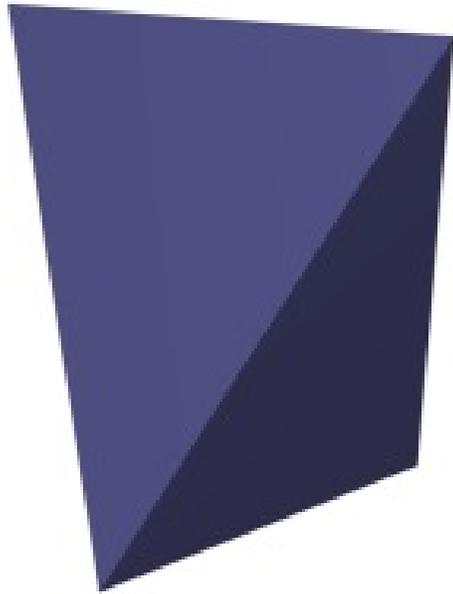


## §ポリゴンをボクセルへ変換



# Voxelization

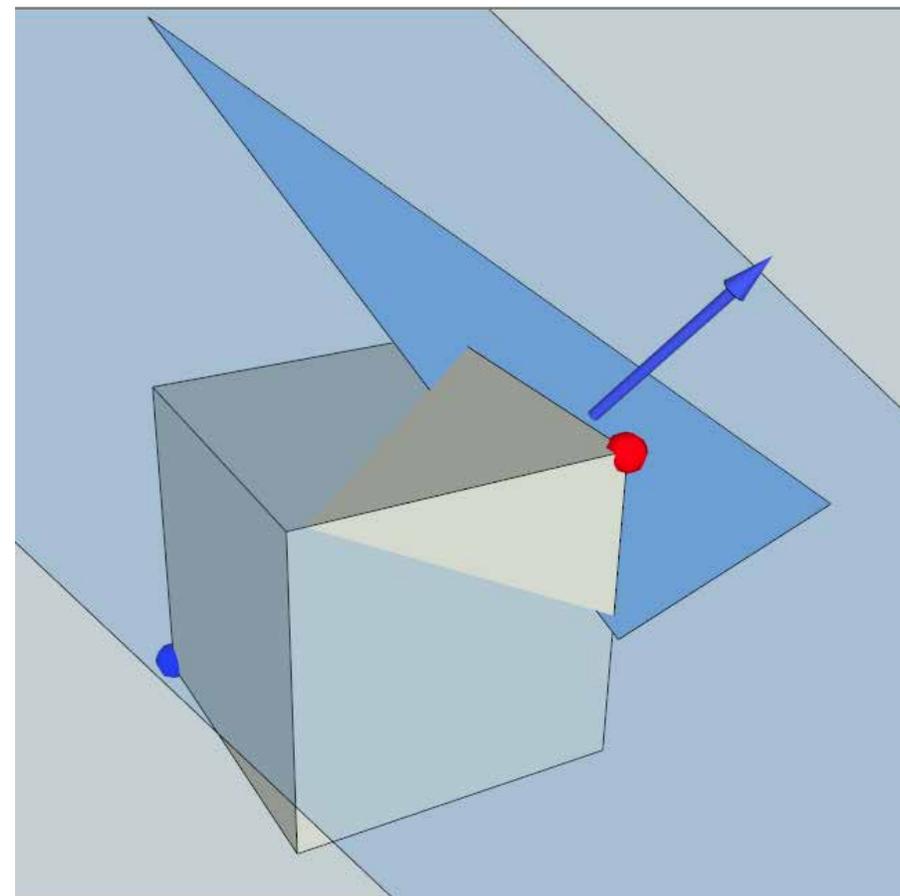
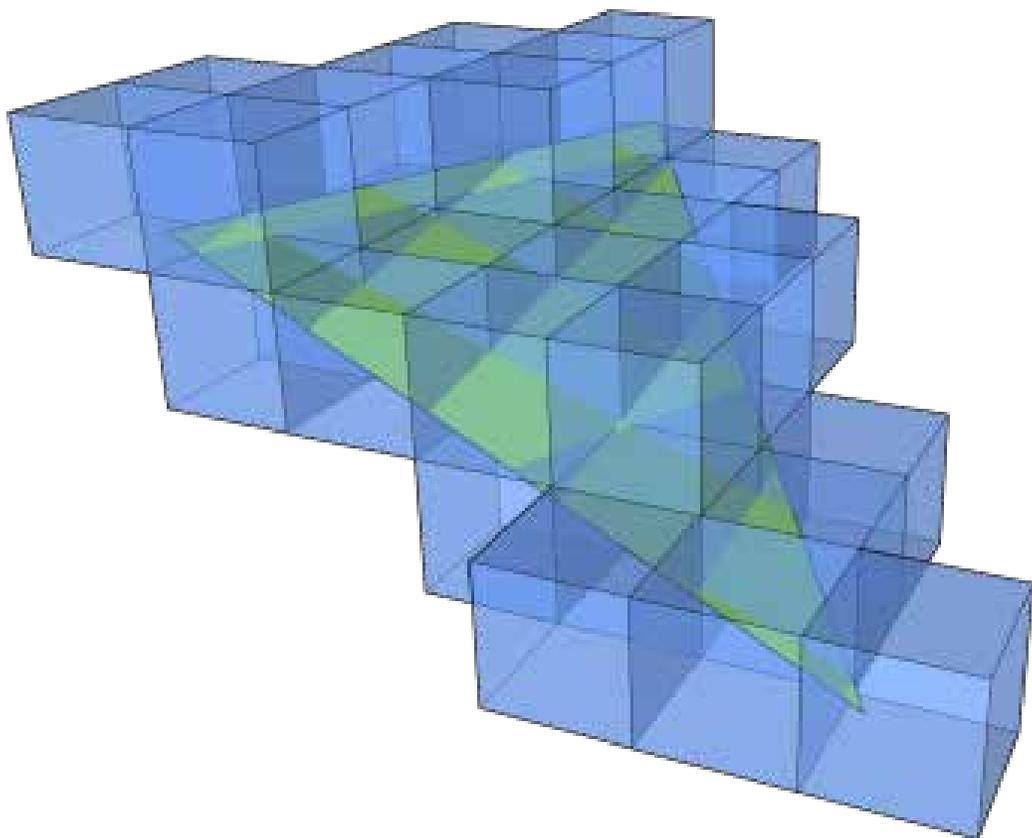
## § ポリゴンモデルをボクセルへ分解する処理



© An exact general remeshing scheme applied to physically conservative voxelization

# 衝突判定 .Voxelization

§ ポリゴン（三角）とボクセル（直方体）の衝突判定が必要



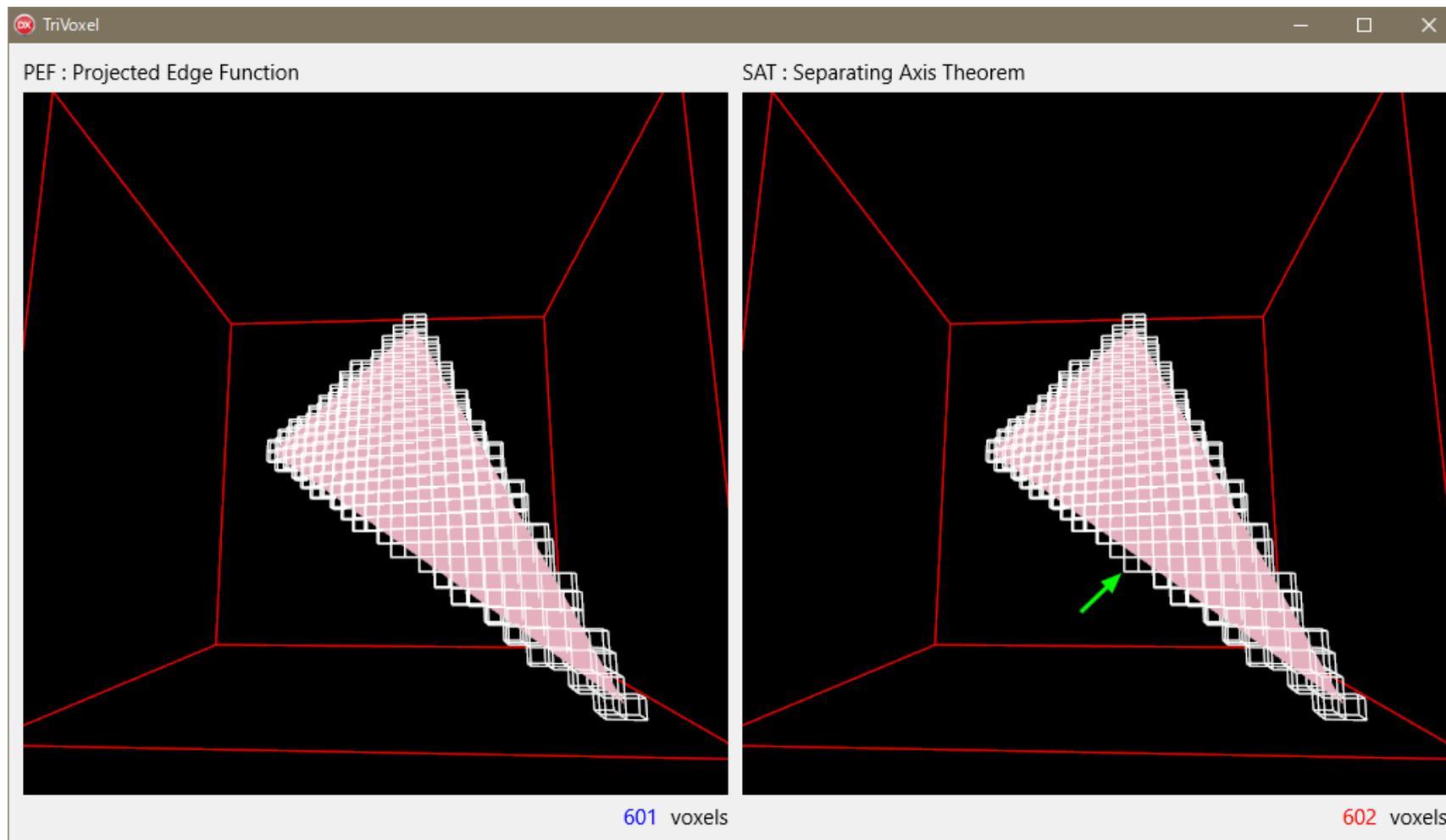
© [blogs.nvidia.com/blog/2014/09/19/maxwell-and-dx12-delivered](https://blogs.nvidia.com/blog/2014/09/19/maxwell-and-dx12-delivered)

© [shikihuiku.wordpress.com/2012/08/02/gpu上でのvoxel構築手法](https://shikihuiku.wordpress.com/2012/08/02/gpu上でのvoxel構築手法)





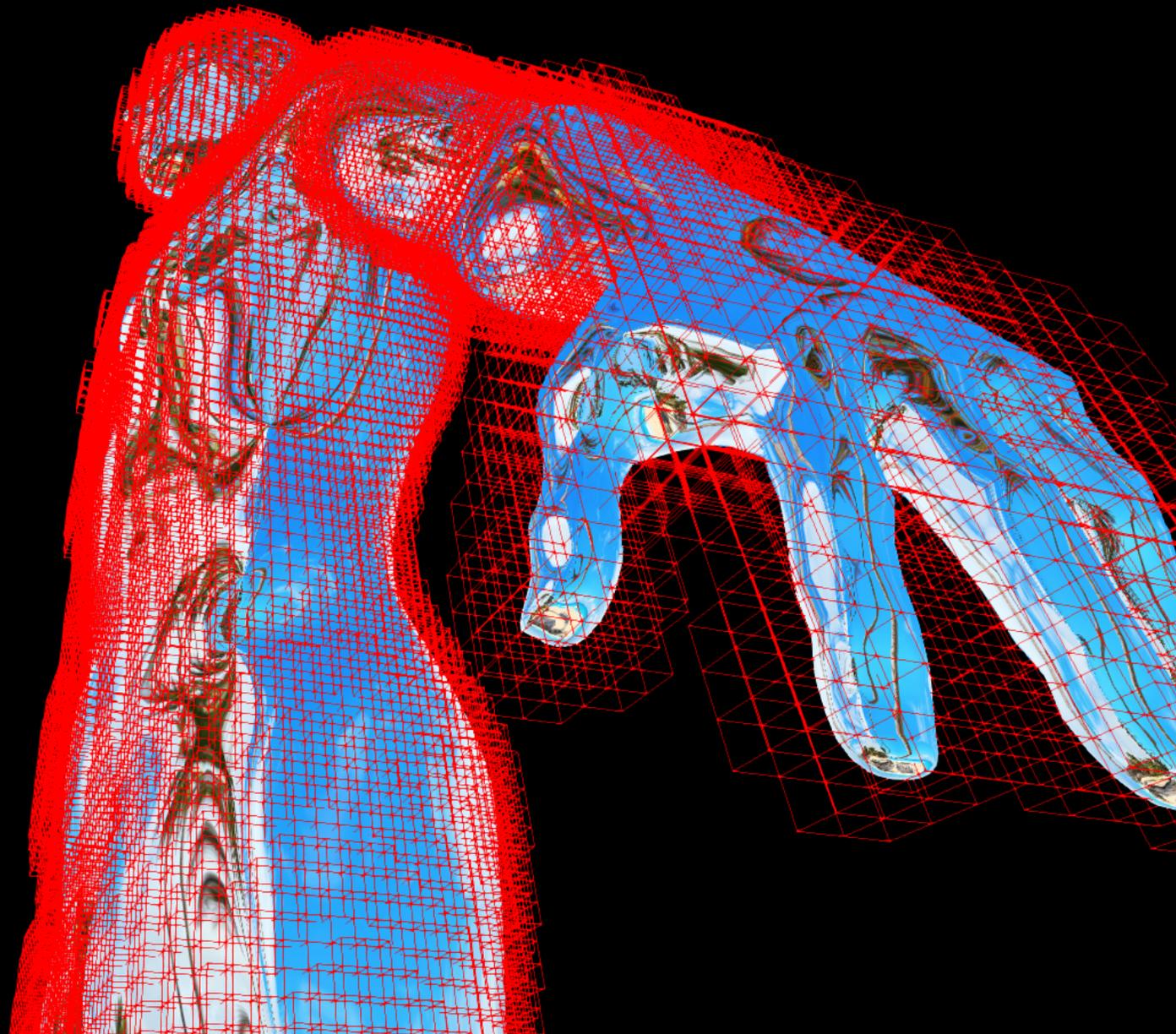
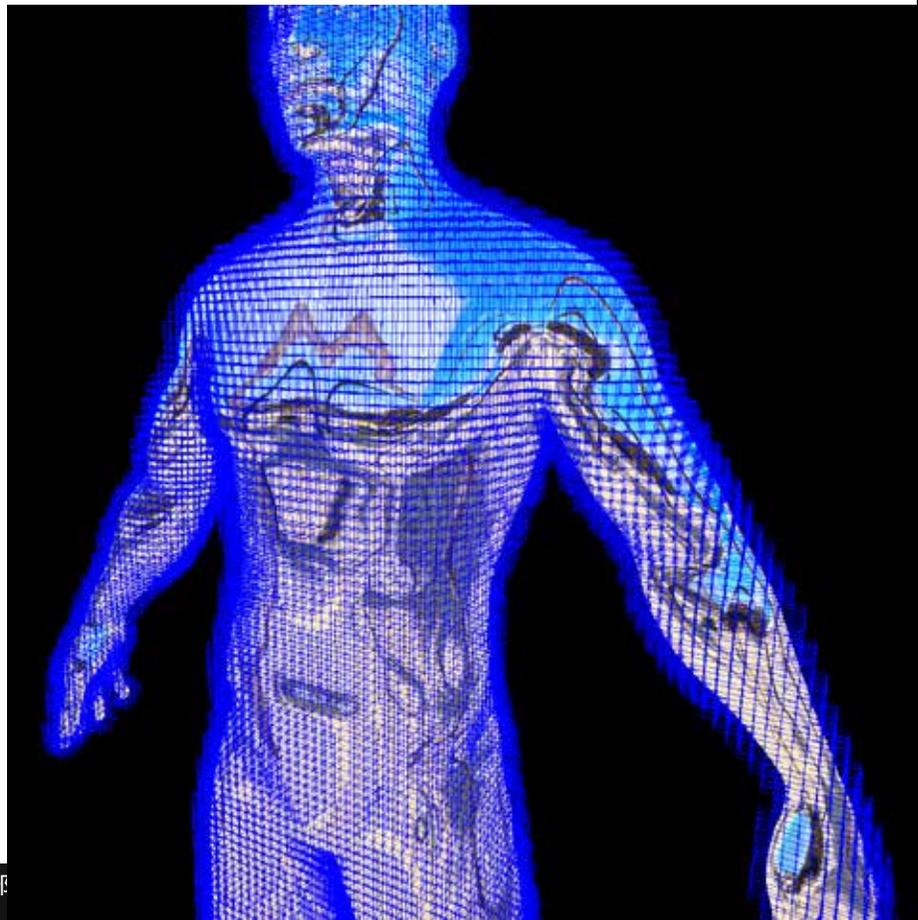
# アルゴリズム比較 .衝突判定.Voxelization



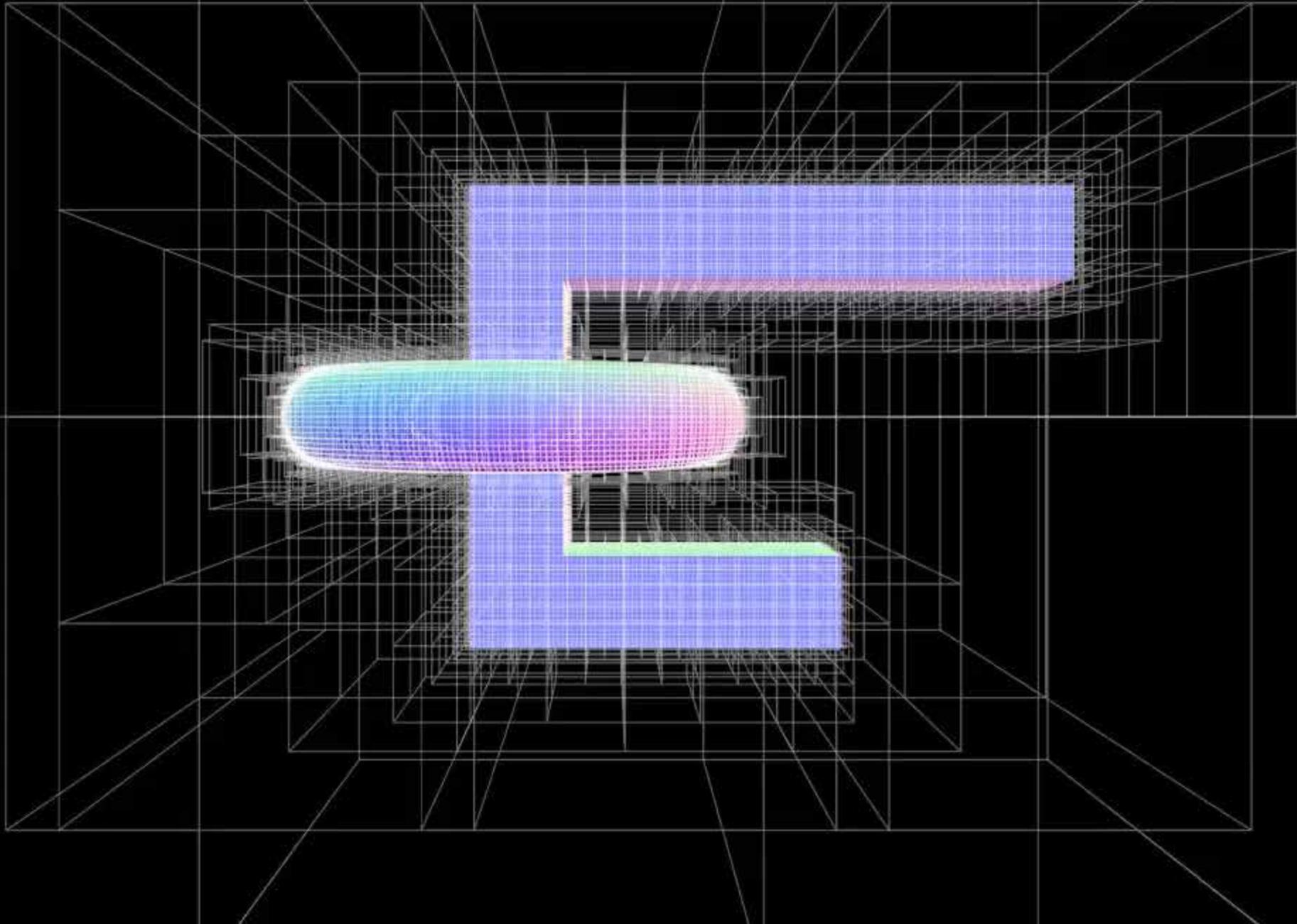
[github.com/LUXOPHIA/TriVoxel](https://github.com/LUXOPHIA/TriVoxel)

# VoxMan .Voxelization

§ 人体のスキャンモデルを  
ボリュームデータへ変換



github.com/LUXOPHIA/Colli sioner



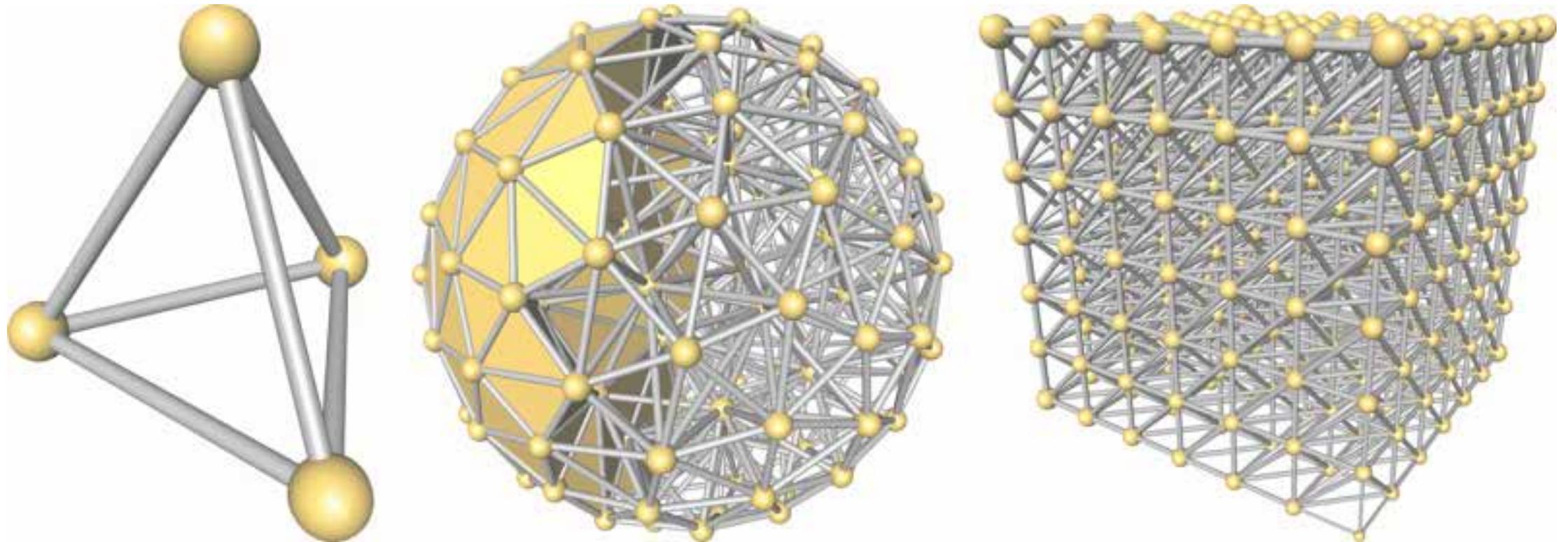
# § テトラヘドライゼーション



**e**mbarcadero®  
DEVELOPER CAMP

# Tetrahedralization

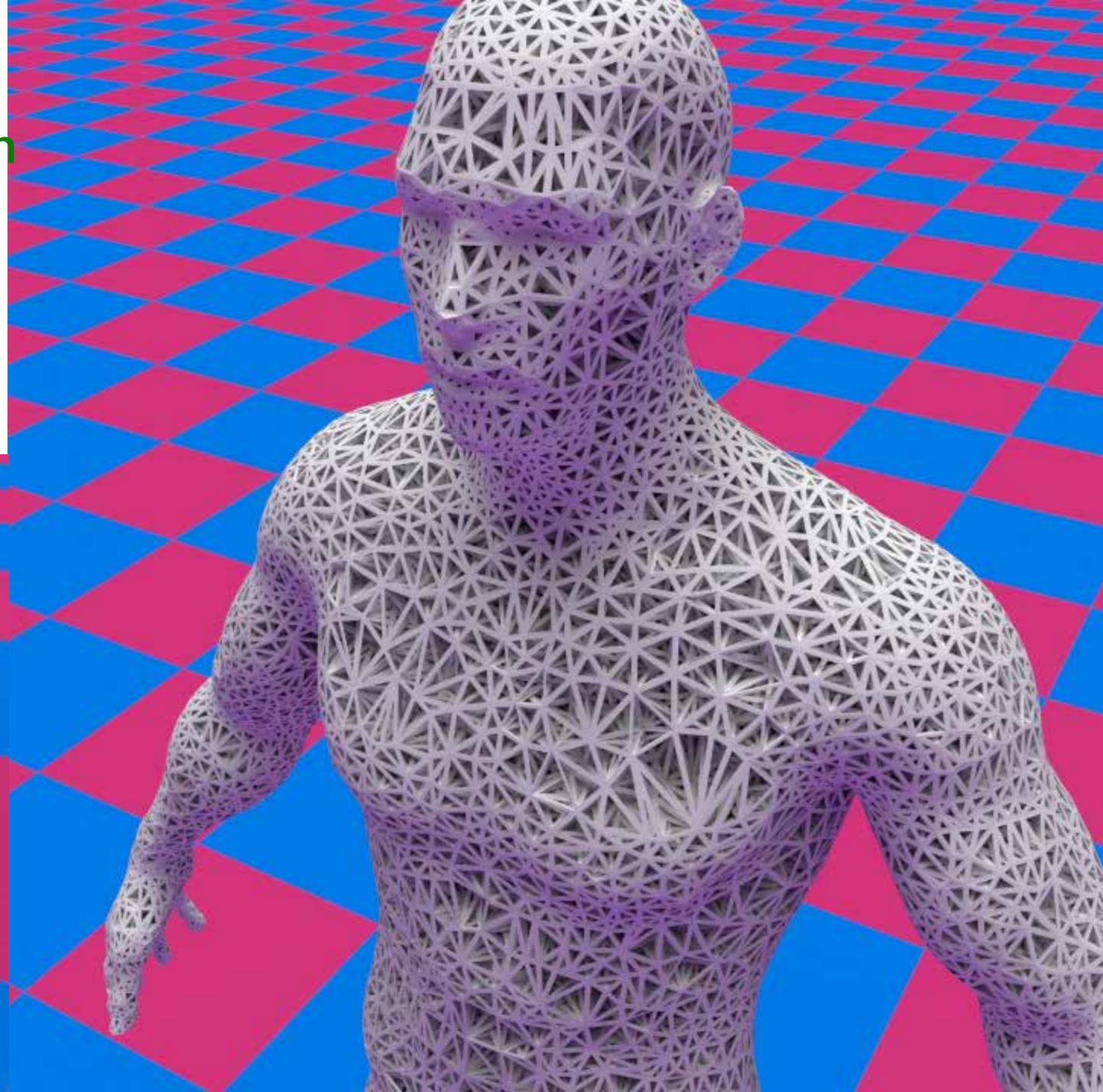
## § 等値面内部を四面体格子に変換する処理



© [sites.google.com/site/introduction2cgal/manyuaru/37-3d-triangulations](https://sites.google.com/site/introduction2cgal/manyuaru/37-3d-triangulations)

# TetraMan .Tetrahedralization

## § 人体を四面体メッシュ化



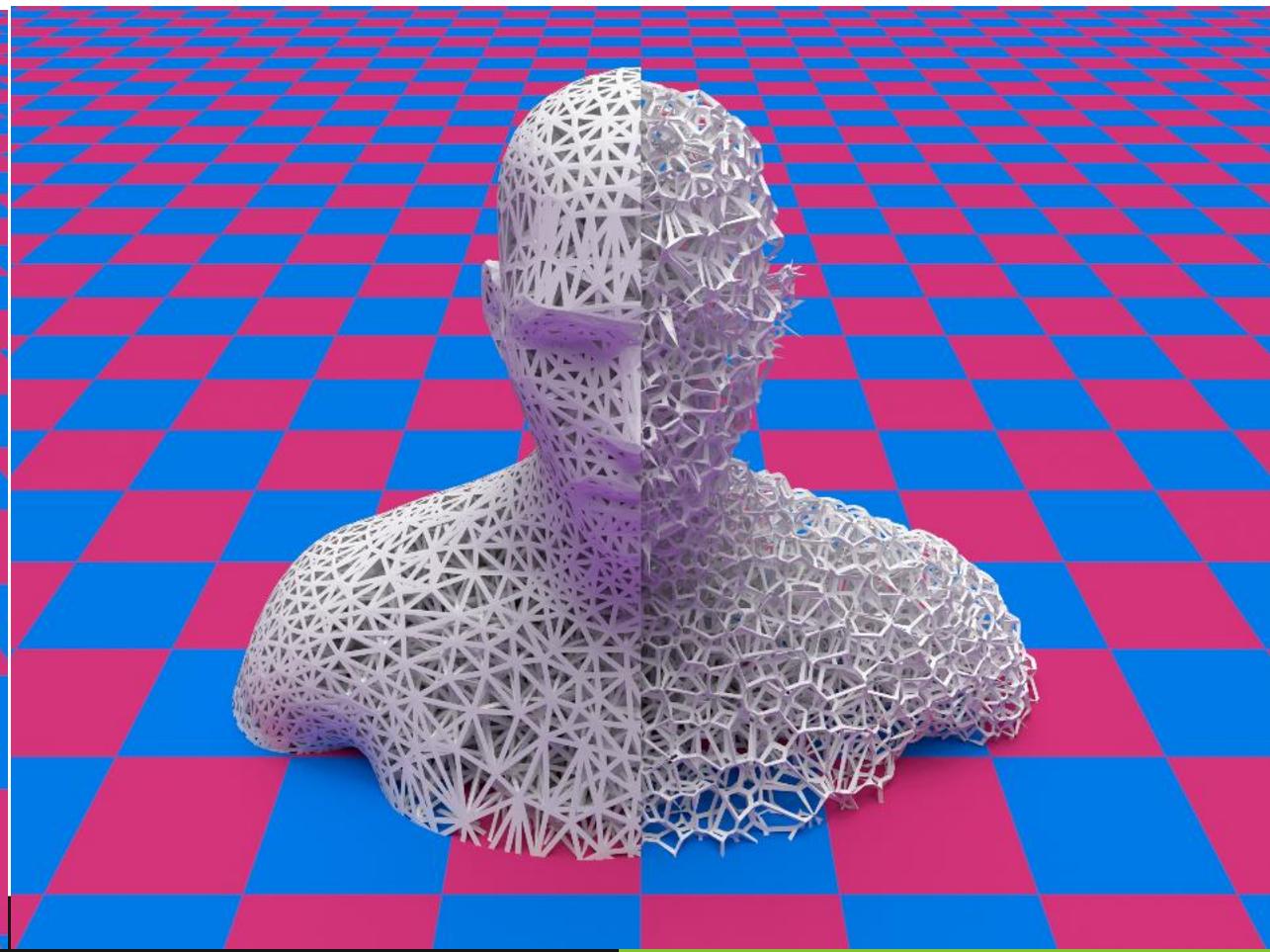
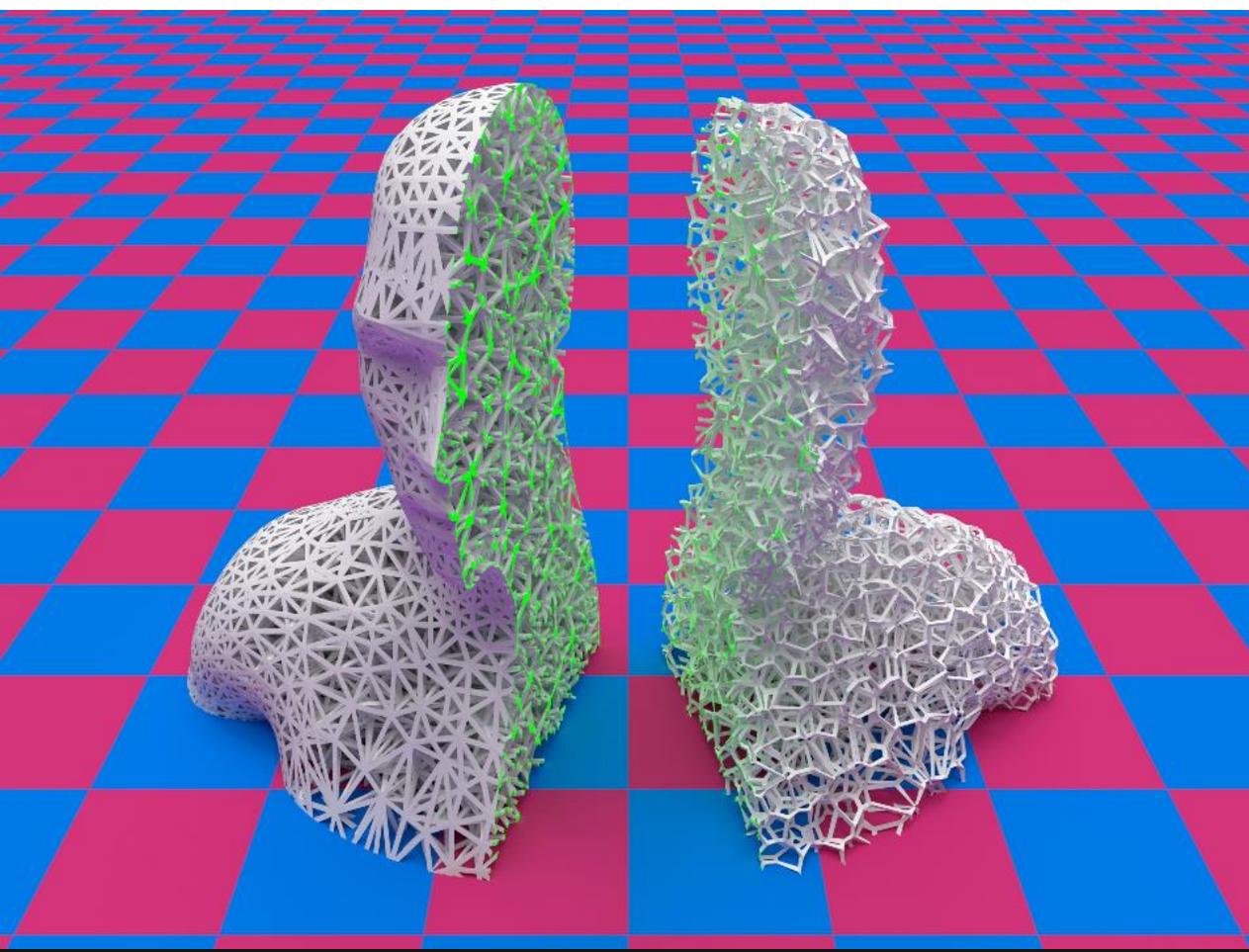
# CGI2017 .TetraMan.Tetrahedralization

§ 慶應義塾大学主催の学会を飾る



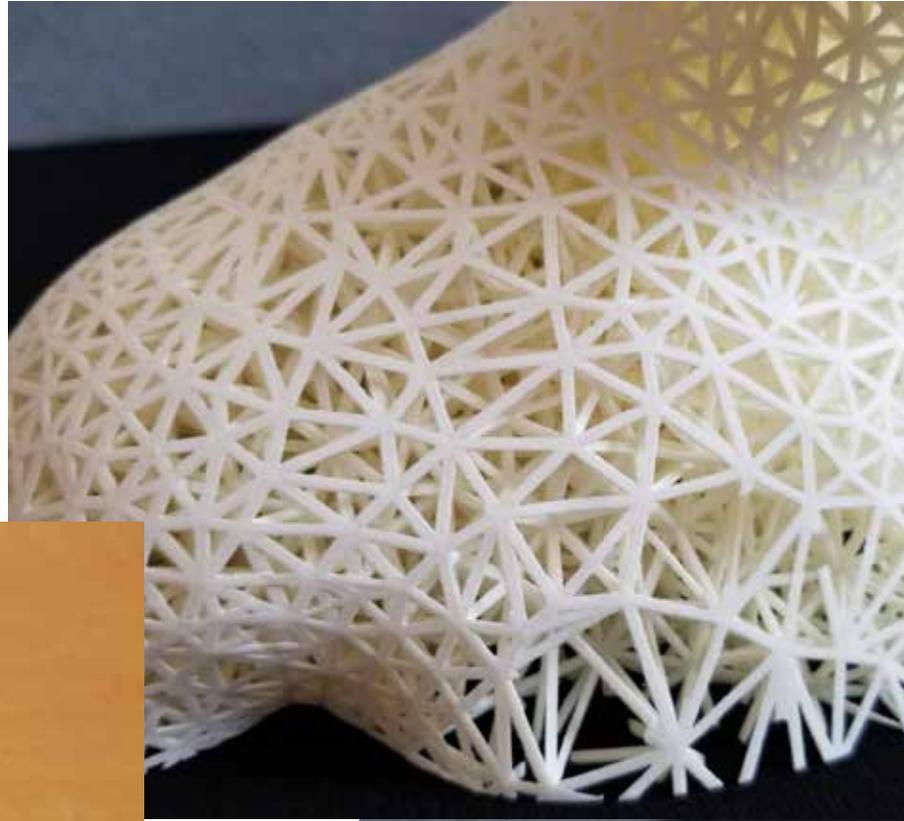
# Asian Digital Modeling Contest 2017 .TetraMan.Tetrahedralization

§ 作品「Duality」を出展。



# 3Dプリント .ADMC2017

§ 最優秀賞を頂きました



第35回 エンバカデロ・デベロッパーキャンプ

